



COMSYS Group CSR REPORT 2015

コムシスグループ CSR レポート



編集方針

「COMSYS Group CSR REPORT 2015」は環境に配慮し、Webサイトを中心にPDFを活用した開示方法を採用しています。皆さまのご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「COMSYS Group CSR REPORT」は、コムシスグループのCSR(企業の社会的責任)に関する考え方と活動状況をステークホルダーの皆さまに、分かりやすく報告することを目的として発行しています。本レポートでは、「本業を通じた社会貢献」をテーマとした事例を特集したほか、グループ各社の2014年度における個々の活動は、ISO26000の「7つの中核主題」に準拠した章構成で報告しています。

■報告対象分野

事業活動の社会・環境の両側面についての取り組みを報告しています。

■報告対象範囲

コムシスホールディングス株式会社および主要事業会社

■報告対象期間

2014年度(2014年4月～2015年3月)の取り組みについて報告していますが、2015年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。

■参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3.1版」

環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

ISO26000:2010年11月1日に発行された国際規格で、企業にとどまらず多様な「組織」を対象とし、持続的な発展と開発への貢献を促すことを目的とするガイダンス。7つの原則(行動規範)と7つの中核主題を掲げ、関連する課題や具体的なアクションプランを挙げて、社会的責任を果たしていくための具体的活動例を示しています。

■次回発行予定

2016年9月

URL▶<http://www.comsys-hd.co.jp/>

コムシスホールディングス会社概要

社 名	コムシスホールディングス株式会社	連結従業員数	9,931人(2015年3月末日現在)
英 文 社 名	COMSYS Holdings Corporation	単独従業員数	45人(2015年3月末日現在)
設 立 日	2003年9月29日	主要事業会社	● 日本コムシス株式会社(以下日本コムシス)
所 在 地	東京都品川区東五反田2-17-1 TEL 03-3448-7100(代表)	(詳細はp.1)	● サンワコムシスエンジニアリング株式会社(以下サンワコム)
資 本 金	100億円		● 株式会社TOSYS(以下TOSYS)
連 結 売 上 高	3,286億円(2015年3月期)		● 株式会社つうけん(以下つうけん)
連 結 経 常 利 益	281億円(2015年3月期)		● コムシス情報システム株式会社(以下COMJO)
			● コムシスシェアードサービス株式会社(以下CSS)

CONTENTS

コムシスグループの組織体制	1
コムシスグループの事業内容	2
トップコミットメント	3

特集1 災害復旧に対するグループ各社の取り組み	6
-------------------------	---

特集2 環境・エネルギーに関する取り組みを拡大	9
-------------------------	---

特集3 CSR重要課題「4つの道しるべ」に関する 2014年度の取り組み状況について	12
---	----

組織統治 / よりオープンに、より厳正に	18
----------------------	----

人 権 / 相手を尊重し、信頼を築く	22
--------------------	----

消費者課題 / お客様視点で企業競争力アップ	23
------------------------	----

環 境 / 地球環境課題の解決に向けて	33
---------------------	----

労働慣行 / 働きがいのある職場環境を目指して	37
-------------------------	----

公正な事業慣行 / オープン・フェアな企業文化	49
-------------------------	----

コミュニティへの参画 / 地域とともに育てていただく	52
----------------------------	----

● 参考資料

コムシスグループCSRのあゆみ	59
-----------------	----

コムシスグループの組織体制 (2015年9月1日現在)

コムシスホールディングス株式会社



日本コムシス株式会社

日本コムシス

設立日 1951年12月20日
所在地 東京都品川区東五反田2-17-1
TEL 03-3448-7030
代表者 代表取締役社長 伊東 則昭
資本金 311億4,051万円
従業員数 連結5,093名
単独3,046名
(2015年3月末現在)
売上高 連結2,090億円
単独1,810億円
(2015年3月期)

■日本コムシスグループ

コムシスモバイル(株)
コムシスエンジニアリング(株)
ウィンテック(株)
コムシス九州エンジニアリング(株)
(株)フォステクノ四国
通信電設(株)
日本海通信建設(株)
コムシスプロミネント(株)
コムシス北海道エンジニアリング(株)
(株)日本エコシステム
コムシスネット(株)
コムシス東北テクノ(株)
コムシス通産(株)
(株)大栄製作所



サンワコムシス エンジニアリング株式会社

サンコム

設立日 1947年9月12日
所在地 東京都杉並区高円寺南2-12-3
TEL 03-6365-3111
代表者 代表取締役社長 山崎 博文
資本金 36億2,471万円
従業員数 連結1,437名
単独696名
(2015年3月末現在)
売上高 連結568億円
単独483億円
(2015年3月期)

■サンコムグループ

三和電子(株)
(株)エス・イー・シー・ハイテック
サンコムテクノロジー(株)



株式会社TOSYS

TOSYS

設立日 1960年1月23日
所在地 長野県長野市若穂綿内字東山1108-5
TEL 026-213-8920
代表者 代表取締役社長 小川 亮夫
資本金 4億5,000万円
従業員数 連結1,034名
単独658名
(2015年3月末現在)
売上高 連結280億円
単独220億円
(2015年3月期)

■TOSYSグループ

(株)アルスター
(株)トーシス新潟
川中島建設(株)
チューリップライフ(株)



つうけん

株式会社つうけん

つうけん

設立日 1951年4月2日
所在地 北海道札幌市白石区本通19丁目南6-8
TEL 011-860-1161
代表者 代表取締役社長 三浦 秀利
資本金 14億3,293万円
従業員数 連結1,658名
単独812名
(2015年3月末現在)
売上高 連結407億円
単独282億円
(2015年3月期)

■つうけんグループ

(株)つうけんアドバンスシステムズ
(株)つうけんアクティブ
(株)つうけんアクト
つうけんビジネス(株)
(株)セントラルビルサービス



コムシス情報システム株式会社

COMJO

設立日 2009年4月1日
所在地 東京都港区高輪3-23-14
TEL 03-3448-8100
代表者 代表取締役社長 坂内 誠一
資本金 4億5,000万円
従業員数 連結510名
単独366名
(2015年3月末現在)
売上高 連結83億円
単独65億円
(2015年3月期)

■COMJOグループ

コムシステクノ(株)



コムシスシェアード サービス株式会社

CSS

設立日 2003年10月1日
所在地 東京都港区高輪3-23-14
TEL 03-3448-7141
代表者 代表取締役社長 上脇 晃一郎
資本金 7,500万円
従業員数 154名
(2015年3月末現在)
売上高 33億円
(2015年3月期)

グループ企業の業務について

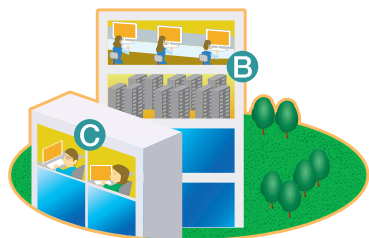
通信キャリア様のほか、官公庁および一般企業各社を主たるお客様としていますが、通信キャリア様に関しては統括事業会社のうちの4社がお客様や営業地域によってセグメントされており、日本コムシスはNTT様およびNTTドコモ様を、サンコムはKDDI様やソフトバンク様をはじめとするNCC (New Common Carrier) を、TOSYSは信越地域のお客様、つうけんは北海道地域のお客様を対象として、情報通信インフラの設計から工事・保守・運用までのサービスを提供しています。COMJOはソフトウェア開発をはじめとする情報システムの開発を主な業務として、経理・財務・総務人事業務関連のサービスを提供するCSSとともに、グループ全体をバックアップしています。

コムシスグループの事業内容 ～ “つながりを支える” コムシスグループ



ICTソリューション

さまざまな技術やサービスを駆使して、お客様のご要望に合わせて、多岐にわたるソリューションを提供します。



コモンプラットフォーム ⑧

通信キャリアのネットワーク構築で培った高度なインフラ構築技術をいかし、お客様のご要望に合わせたプラットフォームを構築します。

ICTプラットフォーム ⑩

増加するデータ資産を高速で送受信するために、特別な圧縮技術やWAN高速化装置などの最新技術により、物理的な制約にとらわれない高速ネットワークを提供します。さまざまなセキュリティ技術を使い、光ファイバやLANケーブルの中を流れる大切な情報を安全・正確に伝達する環境を構築します。

コミュニケーションソリューション

次世代コラボレーションプラットフォーム「comsip」をベースとした、テレフォニーソリューションやコンタクトセンターソリューションにより、理想的なコミュニケーションプラットフォームを構築します。

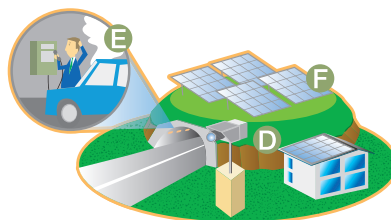
ICTマネジメントサービス

フルアウトソースサービスの提供から、フルタイムの遠隔監視、全国駆け付け保守対応などのさまざまなICTマネジメントサービスにより、お客様の煩雑な運用業務を軽減するとともに、いつでも快適なシステム環境をご利用いただけるようサポートしています。

社会システム

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムを提供します。

※右記工程は、監視システムの場合。



設計

設置エリアの指定を受け、監視カメラなど機器の設置計画を立案します。有線か無線かの判断、使用機器の選定や手配などを行います。

工事

工事計画に沿って、監視カメラの設置、ケーブル接続など、システム導入のための工事を行います。

保守

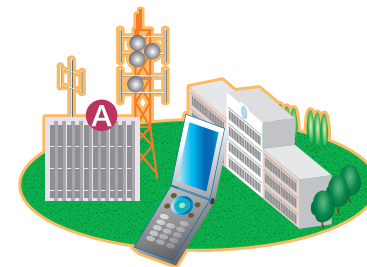
システムや設置機器のメンテナンスを行い、管理者であるお客様が快適にシステムをご利用いただけるようサポートします。

例えば

- ・監視カメラ ⑪
(火山、地震、道路など)
- ・トンネル通信設備、防災設備 ⑫
- ・太陽光発電設備 ⑬
- ・共同溝設備 ⑭
- ・電気設備 ⑮

無線ネットワーク

快適な携帯電話ネットワークを構築するために基地局の設置工事を行います。設置エリアの調査から工事後の保守まで手がけま。



折衝・コンサル

基地局を必要とするエリアの事前調査を行います。結果をもとに設置場所を選定し、設置候補地に関する折衝も行います。

設計・施工

工事計画を立案し、施工を行います。設置場所の条件・環境によっては、基地局を設置するための鉄塔を建設する場合もあります。

保守

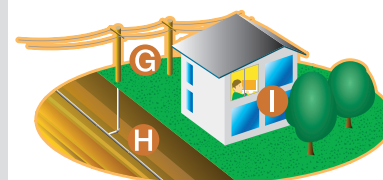
設置工事完了後は、運営中に故障や異常が生じた場合の対応も行っていきます。また、既存エリアの品質調査を実施する場合もあります。

例えば

- ・携帯電話基地局設置 A
- ・携帯電話品質調査
- ・無線LAN

有線ネットワーク

通信キャリアの通信設備構築やメンテナンス、各ご家庭への光ファイバの敷設・接続業務などを行います。地下ケーブル専用のトンネル工事なども実施します。



設計

ケーブルを地下から引くか、電柱から引くかなど、接続するルートを選定します。決定後は、ルート開通に必要な工事計画を立てます。

工事

工事計画に沿って接続工事を行います。お客様のニーズに合わせて、納品後のメンテナンスも請け負っています。

回線増設

将来のさらなるネットワーク拡大に伴うニーズ増加に備え、通信キャリアの需要予測に基づいて回線や交換機の増設工事を行っています。

例えば

- ・通信キャリア設備 ⑯
- ・固定電話回線 ⑰
(地下ケーブル・電柱)
- ・光回線 (FTTH) ・CATV ⑱

通信建設業界のリーディングカンパニーとして、 「本業を通じた社会貢献」にまい進します。

「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献すること」が、私たちの事業活動の目的です。日本の通信ネットワークを根底から支え、次世代に大きく育んでいくため、今後も通信インフラを先進のICTで構築し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。

コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長

高島 元



コムシスグループのCSRの考え方

コムシスグループを取り巻く情報通信分野は今、大きく変化しつつあります。光アクセスのサービス卸による新たな需要拡大、LTEなどの高速無線ブロードバンドサービスのエリア拡大、またウェアラブル端末などの多様化・高度化に向けた技術革新など、サービス内容やマーケット状況が大きく変化しています。

さらに視野を広げれば、公共・民間分野においては、東日本大震災の本格復興、国土強靱（きょうじん）化施策、再生可能エネルギー事業および東京オリンピック・パラリンピックなどにより、社会インフラ投資の拡大が見込まれています。

コムシスグループではこれまで、安心・安全・便利なネットワーク社会の実現に向けた取り組みを強化してきました。私たちのCSR活動の基本は「本業を通じた社会貢献」を行うことです。創業以来培ってきた高度な技術力をもって事業を拡大させ、しっかりと利益を上げ、それをステークホルダーの皆さまに還元して社会の持続的発展に貢献することは、私たちにとって極めて重要であると考えています。

2014年度を振り返って

コムシスグループでは現在、中長期的展望に立ち、生産性の向上やコスト競争力の強化によって競争環境に勝ち残っていくため、「トップラインの拡大」「構造改革の進化」を柱とした構造改革「COMSYS WAY[®]」を目標に掲げ、厳しい経営環境に打ち勝つ筋肉質の体質づくりを進めています。2014年度においては、メガソーラー関連事業をはじめとするグリーンイノベーション事業への参画、公共事業・ICT事業の受注活動およびM&Aなどを実践し、トップラインの拡大に積極的に取り組みました。さらに、受注から施工管理までをトータルでマネジメントする施工ITプラットフォームの活用など、施工効率の向上にも力を注ぎました。

このような状況のもと、移動体通信キャリアの設備投資の抑制、再生可能エネルギーの電力会社による系統接続制約問題の影響などがあったものの、ITソリューション事業や太陽光建設工事を含む社会基盤関連事業が好調に推移したことや、「COMSYS WAY[®]」による生産性向上の効果が現れ、3期連続で最高益を更新することができました。

コムシスグループの使命

私たちは何のために事業活動を行っているのかと問われれば、その答えは「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献すること」にほかなりません。このことは創立以来、社会がどのように変化しようとも揺らぐものではありません。日本の通信ネットワークを根底から支え、次世代に大きく育んでいくため、今後も通信インフラを先進のICTで構築し、災害復旧などへの取り組みを含めて持続可能な社会づくりに貢献したいと考えています。なお、災害復旧については特集1「災害復旧に対するグループ各社の取り組み」(P.6)として本レポートでもご紹介していますのでご参照ください。

こうした使命を全うすべく、安全確保と品質の向上、新たなコーポレートガバナンス・コードに基づくガバナンスの強化、コンプライアンスの徹底、リスク管理の強化およびコムシスグループ行動規範の徹底を図ることのほか、会社法および金融商品取引法に基づく内部統制についても、一層の定着化を図っていきます。

「4つの道しるべ」とその進捗

2013年度において、私たちはより積極的なCSR活動を推進するために、「COMSYS WAY[®]」を軸として、「安心安全な業務体制」「品質へのこだわり」「人づくり」「継続的なBPR」という、優先的に取り組むための指針となる「4つの道しるべ」を定め、これに取り組んでいます。2014年度はこの「4つの道しるべ」に沿った具体的数値目標に向けてCSR活動を推進し、一定の成果を上げることができました。

「安心安全な業務体制」

私たちが事業活動を行う上で、安心安全な業務体制の確保は、いかなる事業環境においても揺るぎない最重要課題です。2014年度は労働災害発生度数率などについてのベンチマークを掲げ、安全パトロールなどによる各現場での安全確保に取り組んだほか、「安全創造館」の取り組みなどを通じ、安全指導體制の強化や事故事例に基づく再発防止策の徹底を推進しました。また、工事に伴う事故のみならず、交通安全の意識向上を目的としてドライブドクターを活用した事故撲滅に努め、成果を上げました。

「品質へのこだわり」

これについては、労働の品質を高め、省エネ・省力化についての創意工夫を凝らしてサービス品質を追求しました。具体的にはエネルギー消費の削減や、改善提案・VE提案(バリュー・エンジニアリングの手法に基づき、製品やサービスの価値をより向上させる提案)の質的向上に努めた結果、各現場で改善させることができました。

「人づくり」

コムシスグループの連結従業員数は約1万人、協力会社を含めると約5万人に上ります。こうした人々と価値観を共有し、それぞれの力量を十分に発揮していただくための環境を整備することは、私たちにとって極めて重要な課題です。こうした考えのもと、時間外労働の効率化、ダイバーシティマネジメントの推進、研修カリキュラムの完全履行といったベンチマークを掲げ、ワークスタイル刷新による人づくりに取り組みました。研修カリキュラムの実行についてはほぼ計画どおりに進捗したものの、時間外労働の効率化、ダイバーシティマネジメントの推進では若干の積み残しがあると認識しています。今後はこうした現状を踏まえ、さらなる改善を図ります。

「継続的なBPR」

どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社にすることは、将来にわたり持続的な成長を図っていくために必要不可欠な課題です。コムシスグループではそのために、新規事業開拓を中心としたトップラインの拡大と、構造改革の進化による利益率のさらなる向上に取り組んでいます。

1. トップラインの拡大

トップラインの拡大では、2MWを超える超大規模太陽光発電所を北茨城市に開所するなど、グリーンイノベーション事業を加速させました。大規模太陽光発電所についてはすでに複数を建設中で、今後も事業のさらなる拡大を見込んでいます。環境面に配慮した当期の取り組みとしては、首都高速道路の低消費電力化に向けた、トンネル照明のLED化工事の受注なども挙げる

ことができます。なお太陽光発電事業の詳細および、高速道路のトンネル照明LED化につきましては、特集2「環境・エネルギーに関する取り組みを拡大」(P.9)をご覧ください。

このほかM&Aの実績としては、2014年5月に実施した日本コムシスによる日本エコシステムの完全子会社化や、同年9月に実施したTOSYSによる川中島建設の完全子会社化が挙げられます。前者については、産業用および住宅用の太陽光発電設備のリーディングカンパニーを子会社化したことで、太陽光発電事業のさらなる拡大が期待できます。一方、後者については、川中島建設の法面(のりめん)保護工事の高い技術力を生かし、TOSYSとの連携を通じて通信建設分野のさらなる強化を図る所存です。

2. 構造改革の進化

構造改革については、成長事業への要員の流動、社員のマルチスキル化の推進、グループ会社の一体的な営業・施工体制の強化、受注から施工管理までをトータルにマネジメントする施工ITプラットフォームの活用に積極的に取り組み、利益率の向上に貢献しました。

なお、具体的な数値目標と取り組み結果、およびその評価・分析につきましては、特集3「CSRを意識した経営」(P.12)をご覧ください。

社会的使命を果たし続ける

コムシスグループが社会的使命を果たすためには、これら「4つの道しるべ」に沿って、一人ひとりが本業を通じたCSRを強く意識することが大切です。今後も通信建設業界のトップブランドとして、コムシスグループならではの活動を推進することにより、さまざまなステークホルダーの期待に応え、社会に貢献できる企業として成長を目指します。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

特集

1

災害復旧に対する
グループ各社の取り組み

コムシスグループでは、災害によって電柱・ケーブルなどが被害を受けた際、現場の状況を把握し、いち早く復旧を行うための体制を整備しています。ここでは、災害復旧や災害危険地域への通信サービス提供に対するグループ各社の取り組みを紹介します。

長野県南木曽町 土石流災害復旧工事

日本コムシス

TOSYS

2014年7月9日、長野県南木曽町読書地区において大規模な土石流が発生しました。この土石流により専用橋とともに地下設備が流され、通信ケーブルが断線し、電柱および架空ケーブルにも大きな被害をもたらしました。この自然災害に対し、日本コムシスは直ちに災害対策本部を立ち上げTOSYSグループのアルスターと人・物の手配に取り掛かりNTT東日本様と連携を取り、「被災者に対する衛星公衆電話の設置」や「専用橋の地下設備の復旧」を迅速な対応で行い、通信サービス早期提供の確保に大きく貢献しました。



大規模な土石流で被害を受けた読書地区（梨子沢）

また、この貢献に対し、NTT東日本様より感謝状をいただきました。



避難所に設置した衛星公衆電話



感謝状を受け取った皆さん

●現場の声

土砂崩れがいつ起きてもおかしくない、危険と隣り合わせの緊急作業でしたが、協力会社などから続々と施工班が応援に駆けつけてくれ、本当に勇気づけられました。

また、日頃より現場では状況を正確に把握することが重要だと思っています。今回の災害復旧工事では、状況・情報を共有する重要性を再認識しました。



日本コムシス
NTT事業本部
信越事業部門
松本TS技術長
矢島 崇宏

御嶽山噴火における緊急回線開通工事

日本コムシス
TOSYS

2014年9月27日、御嶽山が噴火し、多くの登山客が犠牲になりました。日本コムシスとTOSYSグループのアルスターはNTT東日本様の要請を受け、入山規制された危険地域でガスマスクを装着して御嶽山に入り、警察・自衛隊・報道で使用する緊急回線の開通工事を迅速な対応で行い、重要通信の確保に大きく貢献しました。災害時の悪条件の中、救助活動の一助となる貢献をしたことが高く評価され、NTT東日本様より感謝状をいただきました。



感謝状を受け取った皆さん



ガスマスクを装着し、
有害ガス検知器で検知しながら入山



田の原山荘食堂に緊急回線を設置

長野県神城断層地震

日本コムシス
TOSYS

2014年11月22日に発生した長野県北部を震源とするマグニチュード6.7の地震においても、日本コムシスとTOSYSグループのアルスターは地震の影響で破損した電柱・ケーブルなどの設備復旧作業を、安全に配慮しながら迅速な対応で行い早期サービス提供に貢献したことが評価され、NTT東日本様より感謝状をいただきました。



地震により激しく傾く電柱



感謝状を受け取った皆さん

これら長野県南木曽町、御嶽山噴火、長野県北部地震のほかにも、広島県豪雨による土砂災害や徳島TS（テクノステーション）における台風に伴う災害復旧、山形県における雪害支援、徳島県西部大雪災害復旧工事など、災害時には迅速な対応で復旧工事を行っています。

緊急時に備え防災訓練へ参加

日本コムシス
TOSYS

日本コムシスとTOSYSでは2014年11月12日、NTTグループ各社ならびに通建会社とともに、NTT東日本ー関信越・設備部 新潟災害対策室主催の防災訓練に参加し、大規模な地震で甚大な被害が発生したことを想定した8つの演習を行いました。訓練では「地下通信ケーブルの損傷」と「電柱折損の架空通信ケーブルの垂れ下がり」復旧作業の実演、NTT東日本ー関信越様の保有するラジコンヘリを使用した通線作業のデモンストレーションなどがあり、多くの見学者が見守る中、訓練を終えることができました。

こうした訓練に参加し、予期せぬ災害時でも迅速な対応で通信設備の早期復旧ができるよう日頃より備えています。



折損した電柱の建て替え作業



4スパンに及ぶケーブルの張り替え作業

イリジウム衛星携帯電話の配備

サンコム

サンコムでは、災害発生時の復旧や支援のために、各支店にイリジウム衛星携帯電話を配備しています。イリジウム衛星とは、地上780kmの位置に配備された66基の通信衛星です。サンコムでは、一般の通信の確保が困難となるような災害発生時に、いち早く状況把握をして地域やお客様に貢献できるよう、毎月全国を結んで訓練を実施し、機器の充電や付属品の点検も行って、いざというときに備えています。



イリジウム衛星携帯電話利用の様子

環境・エネルギーに関する 取り組みを拡大



コムシスグループでは、太陽光発電事業の展開など、自然エネルギーの普及に継続的に取り組んでいます。ここでは環境・エネルギーに関するグループ各社の取り組みを紹介します。

太陽光発電事業の継続的な取り組み

コムシスグループ

コムシスグループでは、2013年4月に第1号の大規模太陽光発電所を稼働して以来、発電事業を継続的に実施しています。2014年度に稼働開始した太陽光発電所は2カ所です。今後も引き続き、太陽光発電事業を積極的に展開していきます。

第4号 サン・ファクトリー紀長 北茨城（北茨城太陽光発電所）

【概要】

所在地	茨城県北茨城市華川町
敷地面積	約121,000m ²
発電容量	約5,861kW
発電量	年間約600万kWh
パネル数	22,988枚
稼働開始日	2014年12月16日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



第5号 サン・ファクトリーカワタ 加東（加東市屋度太陽光発電所）

【概要】

所在地	兵庫県加東市屋度鴨ケ谷
敷地面積	約29,800m ²
発電容量	約1,355.64kW
発電量	年間約140万kWh
パネル数	5,324枚
稼働開始日	2015年3月19日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社



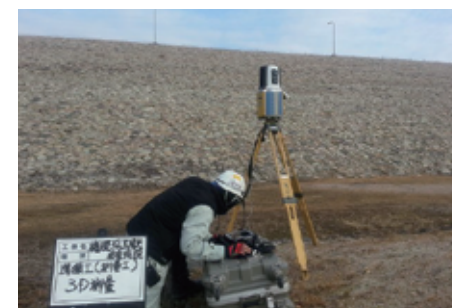
EPC 事業の継続的な取り組み

日本コムシスでは、兵庫県加古川市にある権現ダムの堤体(ていたい、堤防の本体)を用いて大規模な太陽光発電設備を設置し、2014年11月に運転を開始しました。ダムの堤体を用いた太陽光発電設備の設置は、全国初の試みとなります。

設置場所となる堤体は傾斜しており、太陽光発電には有利な構造ですが、リップラップと呼ばれる石垣で形成されており、表面に凹凸がある上、勾配が均一ではありません。このため、基礎部分の平均基準高測定は難航しましたが、3D測量を導入し、お客様の承認を無事得ることができました。また、この測量を慎重に計測したかいもあり、お客様の強い要望であった「見栄えの良さ」も実現することができました。全国初の堤体を用いた太陽光発電設備として多方面から注目を集めており、今後多くの見学者も見込まれています。



太陽光発電設備が設置された権現ダムの堤体



3D測量の様子

日本コムシス

サンコム

TOSYS

このほかにも、日本コムシスでは、F多可太陽光発電所、F鹿嶋太陽光発電所、F今治玉川太陽光発電所などの太陽光発電工事をを行っています。

また、TOSYSの電設事業部門では、NTTファシリティーズ様が長野県小県郡長和町の長門牧場に遊休地に建設するメガソーラー（大規模太陽光発電所）の太陽光システムの施工を受注しました。今回の発電量は長野県内最大級の規模となり、一般家庭の消費電力に換算すると約1,430世帯分に相当します。

サンコムにおいても、NCC電気通信工事以外となる同様の取り組みとして、「太陽光発電設備工事」を推進しています。

2014年度は、栃木県大田原市、茨城県龍ヶ崎地域のメガソーラープラント（大規模太陽光発電所）や、千葉県千葉市・流山市・木更津市、埼玉県本庄市、栃木県鹿沼市、熊本県八代市など、各地域において太陽光発電設備工事を実施しました。

コムシスグループでは、今後もこのような太陽光発電事業を通じて地球環境負荷の軽減に貢献していきます。



安全を考慮し、下から順に設置



長門牧場遊休地に太陽光パネルを設置

首都高速道路に関する取り組み トンネル照明LED化— 日本コムシス

わが国の輸送ルートの要となっている首都高速道路では、近年、LED技術の進歩と低コスト化を背景に、既設照明設備で主流の蛍光灯に比べ低消費電力で長寿命なLED化を、設備更新に合わせて進めています。そのような状況の中、日本コムシスは、トンネル基本照明に初めてLEDを採用した照明改修工事を請け負いました。

首都高速道路は特に交通量の多い高速道路でもあるため、ボルトの拾い忘れなど、協力会社を含めた現場に立つ全員が、工事後の撤収作業に至るまで徹底的なチェックを行い、安全確認を入念に行っています。

また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、今後も首都高速道路の改修工事は続いていくことが計画されており、引き続き、日本コムシスの持つ高い技術と品質を生かして、さらなる低消費電力化に貢献していきます。



古くなったボール照明を取り外す様子



夜間帯に実施するLED化改修工事

法面（のりめん）保護工事の大切さ

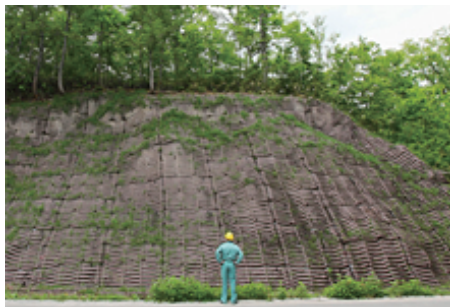
TOSYS

TOSYSグループの川中島建設は、法面保護工事という高い技術を持っており、崩落防止や環境に配慮した工事を実施しています。

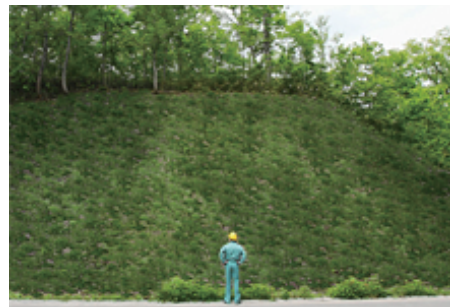
法面保護工事とは人と自然との共存を実現するための工事で、自然斜面や切り土・盛り土によって出現した法面を安定化するという防災対策と、地域の大切な自然環境を守る環境保全の双方を目的としています。地域の大切な財産を守ることができるよう、自然が豊かで災害に強い地域づくりを実現する、それが法面（保護）工事といえます。

これまでの法面工事は、コンクリートで固めること、金網で覆うことを中心にして行われてきました。その結果、自然環境と調和しない構造物となることは避けて通れませんでした。

川中島建設が取り入れている緑化による法面工事では、植物種子の詰まった袋状マットによって、コンクリートの壁面や岩盤でできた法面を保護することができ、自然環境と調和した優れた工事であるといえます。



緑化法面施工3カ月後



緑化法面施工9カ月後

3

CSR を意識した経営
CSR 重要課題「4つの道しるべ」に関する
2014 年度の取り組み状況について

特集



コムシスグループでは、2013年度に選定した4つの重点課題「4つの道しるべ」に沿った中期的なCSR目標を設定し、達成に向けて活動を推進しています。
ここでは、これらの活動状況についてご紹介します。

2014 年度の取り組みについて（総括）

* 評価について

- 「S」・・・A以上の成果が得られた
- 「A」・・・目論見どおりの成果が得られた
- 「B」・・・ほぼ目論見どおりの成果が得られたが、一部に課題が残った
- 「C」・・・ある程度の成果が得られたが、課題も多く残った
- 「D」・・・あまり成果が上げられず、多くの課題が残った

項目	ベンチマーク	評価*	2014年度の取り組みについての総括
安心安全な業務体制	仲間を守り、お客様のプライバシーを守る取り組みを進める		
	労働災害発生度数率 2013年度未満	B	不安全行為の防止徹底と事故撲滅に対する意識付けの強化などにより安全への意識を高めた。 日本コムシスにおいては2013年度比0.01上昇したが、重傷人身事故（落下、転落、転倒など）防止は図られ、その他の該当グループ会社は目標を達成。
	セキュリティ事故0件	B	予防措置の徹底とペナルティ制度によりルールの遵守が図られ、各社ともセキュリティ事故の抑制に努めた。 日本コムシスでは前年比▲50%と大幅に改善し、その他の該当グループ会社は目標を達成。
	協力会社を含む安全研修実施率100%	A	現場で行うブチ研修、情報セキュリティ研修、職長研修、安全交通研修などにつき、グループ会社および協力会社にて実施率100%を実現。
品質へのこだわり	労働の質を高め、省エネ・省力化の創意工夫でサービス品質を追求		
	エネルギー消費（省エネ法） 5年間で2011年度比 実質5%削減	B	事業所の集約や照明のLED化をはじめとした節電施策を推進し、各社とも目標達成に向けて取り組みを強化。 つうけんで前年比7.4%削減するなど、目標達成にむけ進捗している。
	古紙リサイクル率90%以上	A	分別の徹底などにより、古紙リサイクル率の向上に向けた取り組みを進めた結果、サンコム、TOSYS、COMJOで100%となるなど、すべてのグループ会社において目標水準を超えた。
	改善提案・VE提案の質の向上	A	グループ会社各社とも積極的に提案を促した。日本コムシスにおける「チームコムシス賞」の新設など、各グループ会社とも現場のモチベーション向上につながる工夫がなされた。

人づくり	ワークスタイルの刷新で活力ある人づくりに注力		
	時間外労働の効率化	B	労働時間等改善設定会議の開催や、長時間労働者へのケアなど、各グループ会社とも時間外労働の短縮に取り組んだ。業容が拡大する中で、さらなる改善を推進していく。
	ダイバーシティマネジメントの推進	B	育児休暇を取得しやすい環境づくり、女性の新卒採用の積極化など、女性の活用については着実に進捗している。障がい者の労働環境整備についても改善を進めることで、ダイバーシティを推進していく。
	研修カリキュラムの完全履行	A	新入社員研修、階層別管理職研修など、各グループ会社とも、設定したカリキュラムに基づき実施。今後も継続的な実施を予定。
継続的なBPR	どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社を目指す		
	トップラインの拡大（新規事業開拓）	A	・ 公共投資・情報化投資の増加に対応した積極的受注の拡大に努めた。 ・ 太陽光事業を含めたグリーンイノベーション事業への積極的参画、拡大を果たした。（メガソーラーから、中小規模の産業用・住宅用まで幅広い太陽光発電事業の推進） ・ 「グループ事業推進室」の新設によるグループ協業体制の確立、グループ連携による幅広い受注を獲得した。 ・ 政府の推進する「スマート社会」へ向け、新たな事業領域へのチャレンジを行った。 ・ 事業領域の拡大をターゲットに、M&A・アライアンスなどを強化した。
	構造改革の進化によるさらなる利益率向上	A	・ モバイル・NCC関連事業への人的経営資源の集中および、社会基盤関連事業の拡大を推進するために、有資格者のグループ内流動を促進した。 ・ 社員のスキル転換、マルチスキル化によるリソースの最大活用を図った。 ・ 「小規模工事」「繰り返し工事」の増大に対応するため、受注から施工管理までをトータルマネジメントする新たな施工ITプラットフォームを活用した。 ・ 統括事業会社、連結子会社の一体的な営業、施工体制の強化を図った。 ・ 営業利益率の推移 2012年度：7.1%→2013年度：8.3%→2014年度：8.4%

2014年度の取り組みについて（各社ごとの取り組み状況）

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
安心安全な業務体制	仲間を守り、お客様のプライバシーを守る取り組みを進める		
	労働災害発生度数率 2013年度未満	B	各社とも、不安全行為の防止や基本管理の徹底を図り、労働災害発生防止に努めた。
			【日本コムシス】重傷人身事故（落下、転落、転倒など）防止が図られた。 2013年度 0.18% 2014年度 0.19%
			【サンコム】 2013年度 0.098% 2014年度 0.088% (目標達成)
			【TOSYS】 2013年度 0% 2014年度 0% (目標達成)
			【つうけん】 2013年度 0% 2014年度 0% (目標達成)
	セキュリティ事故0件	B	【日本コムシス】 5件のセキュリティ事故が発生した。（ただし前年比では発生件数は削減）
			【サンコム】【TOSYS】【つうけん】【COMJO】【CSS】 セキュリティ事故0件を達成した。
	協力会社を含む安全研修 実施率100%	A	【日本コムシス】 ・ 現場で行う研修（ブチ研修）実施率: 100%
			【サンコム】 ・ 情報セキュリティ研修（半期に1回、年2回実施）実施率:100% ・ 職長研修（安全を中心とした教育） 420名受講 ・ 安全交通研修 73名受講
			【TOSYS】 ・ 新規職長教育 実施率:90% ・ 職長再修科教育 実施率:97% ・ 高所作業車特別教育 実施率:100%
			【つうけん】 ・ 安全作業における教育および個人情報保護教育 実施率:100%

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
品質へのこだわり	労働の質を高め、省エネ・省力化の創意工夫でサービス品質を追求		
	エネルギー消費（省エネ法） 5年間で2011年度比実質5%削減	B	【日本コムシス】 2014年度 電力使用量 10,852,039kWh 2011年度比 4.7%削減
			【サンコム】 2014年度 電力使用量 1,350,986kWh 2011年度比 34.4%増加 ・事業拡大のため電力使用量は増えているが、2013年度比では▲8.4%となっている。
			【TOSYS】 2014年度 電力使用量 1,742,929kWh 2011年度比 36.5%増加 ・新事業所の開設により電力使用量は増え、2013年度比では+2.3%となっている。
			【つうけん】 2014年度 電力使用量 2,632,889kWh 2011年度比 7.4%削減
			【COMJO】 2014年度 電力使用量 547,662kWh 2011年度比 1.0%削減
			【CSS】 2014年度 電力使用量 675,292kWh 2011年度比 4.0%削減
	古紙リサイクル率 90%以上	A	【日本コムシス】 2014年度古紙リサイクル率 93.4%
			【サンコム】 2014年度古紙リサイクル率 100%
			【TOSYS】 2014年度古紙リサイクル率 100%
			【つうけん】 2014年度古紙リサイクル率 91.1%
			【COMJO】 2014年度古紙リサイクル率 100%
			【CSS】 2014年度古紙リサイクル率 94.0%

品質へのこだわり	改善提案・VE提案の質の向上	A	【日本コムシス】 ・2014年度（上級提案数）数値：621件 ・「チームコムシス賞」を新設しモチベーションの向上を図った ・関西支店ドコモ本部：NTTドコモ関西支社様よりVE提案の 本社提案賞を受賞 ・東北支店：NTTドコモ東北支社様よりVE提案について表彰 ・ドコモ事業本部 建築TS：ドコモ建設業務改善活動発表会にて優良賞を受賞
			【サンコム】 2014年度 サンコム式カイゼン 提案件数 2,659件 （提案実施：1,918件 提案のみ：741件） ※一人当たりの提案件数4.12件
			【TOSYS】 ・SS-G曲りちょう架金物の改善提案 機能性・信頼性・コストを維持しつつ作業性・安全性が大幅に向上したことにより、VE提案として採用。NTT東日本NW事業推進本部長表彰に至る。
			【つうけん】 ・開発パートナー制度 各拠点に提案拠点責任者、開発パートナー担当者を選出・配置し提案活動の活性化を目指す。 ・SKY選奨を3件受賞 ・VE：RSBM-U100用架台の開発 ・高所作業車用バケットカバーの開発 ・アイデア：3号AOクロージャ FAS成端ケース「D」の改良 ・VE&VA：UOW-P接続トレイの改善
			【COMJO】 ・COMJO現場改善活動 自分たちの現場力を磨き、働きがいがある、明るく楽しい現場に変革すべく全社員が活動する。 全社員の84%が参加し、毎月の活動報告を実施。年2回の成果発表会（15チームが発表）で5チームの優秀チームを選出。
			【CSS】 ・カイゼン活動は毎月進捗報告、年2回カイゼン発表大会を実施。内容は業務効率や5Sなど。

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
人づくり	ワークスタイルの刷新で活力ある人づくりに注力		
	時間外労働の効率化	B	【日本コムシス】 - 労働時間等改善設定会議の定期開催(四半期ごと) - 長時間労働者3カ月平均80時間以上の社員は、チェックリストを実施。高ストレス者は、産業医面談を実施 【サンコム】 - 毎週水曜日と金曜日、週2回ノー残業DAYを設定 - 有給休暇促進(ブリッジホリデイの導入) 「時間外勤務命令管理簿」の活用 - 長時間労働者に対する産業医面談 - 健康管理室の開催(本社にて開催・月4回～5回) 【TOSYS】 - 定時退社日の設定(毎週水曜日) - 毎月12日定時退社日(安全誓いの日) - 長時間労働者(月45時間以上が3カ月連続)への産業医の面談・相談 【つうけん】 - 定時退社日の設定(水曜日) - 長時間労働者(月60時間以上が2カ月連続)への産業医の面談 【COMJO】 - 定時退社日の設定(水曜日) - 長時間労働者(連続3カ月80時間以上または1カ月100時間以上)への産業医の面談 - 深夜・休日勤務の事前チェックの強化 【CSS】 2014年度 一人当たりの時間外平均は13.7時間 - 時短プロジェクトで20時間目標、10時間目標を設定 - ここ数年は10時間目標を掲示 - 定時退社日の設定(水曜日)、長時間労働者への産業医の面談も取り組み
	ダイバーシティマネジメントの推進	B	【日本コムシス】 - 障がい者雇用環境の整備は未だ道半ば - 障がい者雇用に向け業務の切り出しの実施。求人票をハローワークへ提出 【サンコム】 - 障がい者雇用制度の促進 - 女性管理職の登用

人づくり	ダイバーシティマネジメントの推進	B	【TOSYS】 - 女性作業員、現場で働く女性の躍進(光通信工事技能競技会優勝) - 採用数(女性採用数) 2013年:21名(2) 2014年:10名(3) 2015年:8名(1) ()内女性採用数 【つうけん】 - 採用数(女性の採用数) 2013年:9名(1) 2014年:9名(1) 2015年:7名(1) 【COMJO】 - 採用数(女性採用数) 2013年:8名(0) 2014年:15名(3) 2015年:15名(3) - テレワーク・在宅勤務については、「モバイルSE支援システム」の活用により、社外からスマートフォン、タブレット、PCで社内ポータル(メール、勤務入力、掲示板等)の利用を実現 【CSS】 - 女性比率:社員(出向、契約社員含む) 57%、プロジェクトリーダー 48%、管理職 24% 60歳以上の社員6名(シニア社員・エキスパート社員)
	研修カリキュラムの完全履行	A	【日本コムシス】 - 階層別研修: 対象者数 852名 受講者数 852名 履行率 100% 【サンコム】 - 階層別研修: 対象者数 132名 受講者数 131名 履行率 99.2% 【TOSYS】 - 階層別管理職研修(新任管理者対象): 対象者数 19名 受講者数 19名 履行率 100% - 評価者研修: 対象者数 160名 受講者数 120名 履行率 75% 【つうけん】 - 階層別研修: 対象者数 128名 受講者数 128名 履行率 100% 【COMJO】 - 階層別研修: 対象者数 66名 受講者数 61名 履行率 92% 【CSS】 - 階層別研修(一般、中堅、管理職)を定期的実施 - ハラスメント研修: 対象者数 86名 受講者数 86名 履行率 100%

項目	ベンチマーク	評価*	各社ごとの取り組み状況
継続的なBPR	どんな経営環境でも乗り越える筋肉質で強い会社を目指す		
	トップラインの拡大 (新規事業開拓)	A	【日本コムシス】 ・メガソーラー事業の展開（北茨城太陽光発電所・加東市屋敷太陽光発電所稼働） ・日本エコシステムの子会社化 ・首都高速再生・上下水道設備工事受注
			【サンコム】 ・太陽光発電設備工事、新エネルギーなど、太陽光施工監視制御システムの受注
			【TOSYS】 ・メガソーラー事業の施工を受注 ・長和町太陽光発電所などNTTファシリティーズの工事 ・川中島建設との経営統合
			【つうけん】 ・NTT光を利用したインターネット光電話サービスを開始
	構造改革の進化によるさらなる利益率向上	A	【日本コムシス】 ・事業分担の見直しなど、グループ会社との一体的運営徹底 ・関西エリアにおける施工子会社の再編 ・アクセス・モバイル各現場作業にタブレットPC活用などIT武装化
			【サンコム】 ・バックヤード業務一元化と業務プロセスの抜本改善対策推進
			【TOSYS】 ・グループ会社との一体的運営徹底 ・事業所の統合による効率化推進（東信エリア）
			【つうけん】 ・つうけんアクティブなどグループ再編後の社内システム充実
			【COMJO】 ・ソフトウェア開発プロセスの改善取り組み
			【CSS】 ・人事給与、勤務管理システムのコムシスグループ全体への拡大取り組み

* 評価について

「S」・・・A以上の成果が得られた

「A」・・・目論見どおりの成果が得られた

「B」・・・ほぼ目論見どおりの成果が得られたが、一部に課題が残った

「C」・・・ある程度の成果が得られたが、課題も多く残った

「D」・・・あまり成果が上げられず、多くの課題が残った

2014年度活動報告

ステークホルダーの皆さまに向け、社会的責任に関する国際規格 ISO 26000における7つの中核課題に則り、ともに社会的価値を創造していくための取り組み

組織統治

→ p.18~

よりオープンに、より厳正に

- ▶ 公平かつ透明性のあるIR活動を推進
- ▶ 事業継続

人権

→ p.22

相手を尊重し、信頼を築く

- ▶ 人権の尊重

消費者課題

→ p.23~

お客様視点で企業競争力アップ

- ▶ 品質へのこだわり
- ▶ お客様満足度向上に向けた取り組み

環境

→ p.33~

地球環境課題の解決に向けて

- ▶ 温室効果ガスの削減に向けた取り組み
- ▶ 環境保全について考える取り組み

労働慣行

→ p.37~

働きがいのある職場環境を目指して

- ▶ 安心・安全な業務体制
- ▶ 健康管理
- ▶ 人材育成
- ▶ 従業員とのコミュニケーション
- ▶ ダイバーシティの推進
- ▶ デーセントな労働条件の提供

公正な事業慣行

→ p.49~

オープン・フェアな企業文化

- ▶ コンプライアンス
- ▶ リスクマネジメント
- ▶ 公正な競争・取引の実践

コミュニティへの参画

→ p.52~

地域とともに育てていただく

- ▶ コミュニティへの積極的な参画
- ▶ 地域社会との交流

2014年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、
ともに社会的価値を創造していくための施策

組織統治

よりオープンに、より厳正に

さまざまなリスクを想定したマネジメント体制のもと、
健全な企業体質を構築して、企業責任を全うします。

□ 基本的な考え方

コムシスグループはグループのシナジーを最大限に生かし、高品質な技術・サービスを提供することで、ICTが寄与する「持続可能な社会」の実現に向けて企業努力を重ねています。企業努力の基本となる経営管理体制や内部統制システムを強化し、株主・投資家の皆さまへの積極的なIR活動を推進するなど、コーポレート・ガバナンス強化のための施策に継続して取り組んでいます。

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

○ コーポレート・ガバナンス

ガバナンス体制 コムシスホールディングス

— 継続的なBPR —

コムシスホールディングス（以下、当社）では、監査役設置会社制度を採用しています。

経営戦略に関する最高意思決定機関である取締役会は、当社事業に精通する取締役と独立した立場で経営監視を行う社外取締役で構成され、経営効率を高めるとともに、法的権限を強化された社外監査役による監査機能の充実を図ることにより、経営の健全性の維持強化に努めています。取締役会は12名の全取締役により構成され、取締役会規則に基づき定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催しており、法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行っています。取締役会の決定に基づく業務執行については、四半期ごとに担当取締役が取締役会に報告しています。社外監査役を含む監査役4名は取締役会に出席し、業務執行上の課題について意見を述べるとともに、取締役の業務執行を監視しています。社外取締役を除く取締役および常勤監査役で構成されている経営会議は原則月1回開催され、業務執行の効率化を高めるため、重要な意思決定事項について審議および決議を行います。経営会議には必要に応じて各組織長などがオブザーバーとして出席し、意思決定内容を的確に把握できるようにしています。また、各取締役の指揮のもと、担当業務別に執行会議を開催し、効率的な業務運営を行っています。

内部統制システムの整備 コムシスホールディングス

— 継続的なBPR —

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」については、内部統制室を設置して財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

コムシスグループ新任役員研修会 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

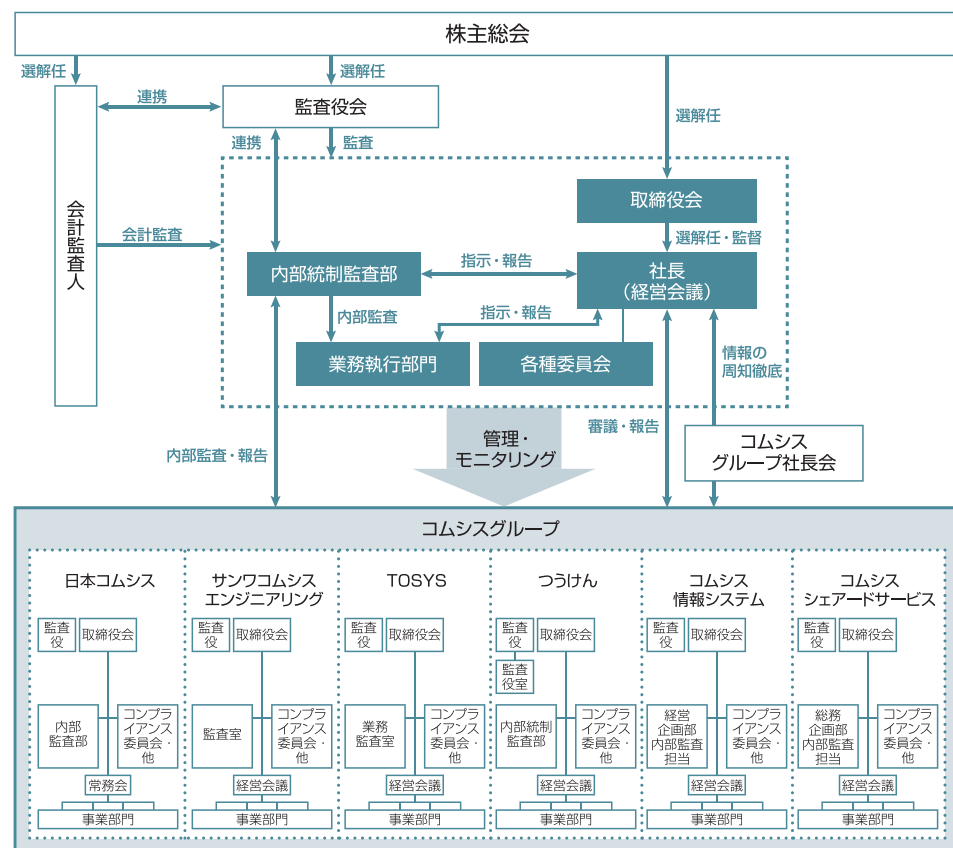
2014年7月にコムシスグループ新任役員研修会を開催しました。

本研修会は、グループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。

弁護士、公認会計士を講師に迎え、「取締役・監査役の職務と責任」および「役員が知っておくべき会計」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制 (2015年8月1日現在) コムシスホールディングス —継続的なBPR—

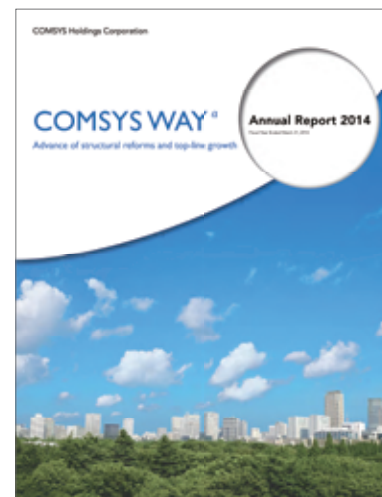
コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制を図式化すると、おおむね下図のとおりとなります。



○ IR情報の適正・適切な開示

タイムリーな情報開示を実施 コムシスホールディングス —継続的なBPR—

コムシスホールディングスでは、株主・投資家の皆さまに対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRライブラリー、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリーでは、「決算短信」「有価証券報告書」「事業報告書」「アニュアルレポート」などの各種資料のPDFファイルを、いつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことができます。また、お問い合わせの多い質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆さまがお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。



Annual Report 2014



コムシスだより (期末)

開かれた株主総会の開催

第11回定時株主総会を開催 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

2014年6月27日、東京・品川区のコムシスホールディングス本社ビルにて「第11回定時株主総会」を開催しました。

より多くの株主の皆さまが、株主総会における議案を十分に審議し、出席していただけるように、株主総会の3週間前に招集通知を発送しています。また、この株主総会での決議結果についても、Webサイトに掲載して公開しています。

決算説明会の開催

年2回の決算説明会を開催 コムシスホールディングス

—継続的なBPR—

機関投資家の皆さまに向けて、コムシスホールディングスの経営方針や財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。

2014年度の決算説明会では、いずれも約60名のアナリストや機関投資家の皆さまにご参加いただきました。また、2014年度は3度の海外IRを行いました。

株式の25%程度を外国の機関投資家が保有しており、大変重要なステークホルダーとして位置づけられています。



決算説明会の様子

事業継続

子会社化・経営統合の実施 日本コムシス TOSYS

—継続的なBPR—

日本コムシスでは、産業用および住宅用の太陽光発電設備の販売・据え付け専門に事業を展開し、特に、戸建て住宅用太陽光発電の黎明期より普及発展に努めている日本エコシステムを2014年5月に子会社化しました。相互の経営資源を有効に活用してシナジーを発揮するとともに、メガソーラーから中小規模産業用太陽光および住宅用太陽光まで、一層幅広く太陽光発電事業を推進しています。

TOSYSでは2014年9月、長野県長野市にある川中島建設を完全子会社化する経営統合をしました。

BCP（事業継続計画）に関する取り組み

事業継続計画に関する取り組み 日本コムシス

—継続的なBPR—

ここ数年、火山の噴火や感染症のパンデミック(汎発流行)などのさまざまな災害が多発しています。通信建設会社としての私たちのミッションは、災害によって損なわれた住民の皆さまのライフラインの一つである通信インフラの機能をいち早く復旧するための体制を整え、NTT様をはじめとするお客様の支援をすることです。

日本コムシスの支援体制は、災害発生時と同時に、本社と被災地の双方に災害対策本部を置きます。本社に設置した本部は被災地の本部が把握する情報や要望を取りまとめ、被災地で必要とされる物資および支援要員を本社に設置した本部からの指示により調達・準備するなど、本社と被災地本部および各事業部の連携による効果的な支援ができるよう、災害演習も行っています。

災害発生時、あらかじめ指名されている災害対策要員は、震度6弱以上の地震が発生した場合、まず自らの安全と家族の安全を確保後、おのこの指定

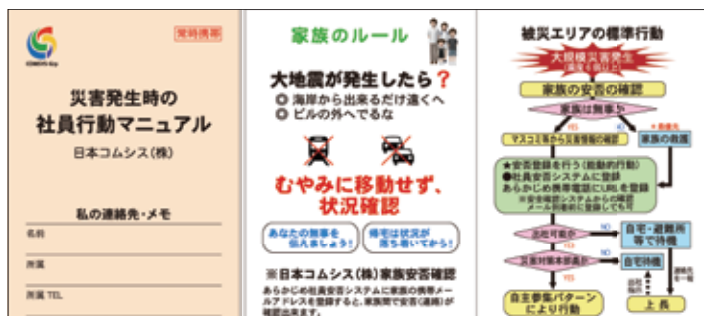
されている近傍の拠点に参集し情報収集をするよう行動を規定しています。

また、日本コムシスでは独自の安否確認システムを保有し、効率良く社員および協力会社社員の安否確認を行っています。このシステムは、あらかじめ自分の携帯などのメールアドレスを安否確認システムに登録することにより、災害発生直後に起動したシステムから登録した携帯などにメールが届く仕組みで、年に2回、抜き打ちによる安否確認訓練を実施し、風化防止を図り社員の災害時の意識を維持しています。

このほか、安全品質管理本部では、緊急時にこのような対応が取れるよう、重要事項をまとめたものを社員や家族、協力会社社員に向けて、合計7万部を名刺サイズのポケット版災害時行動マニュアルにして配布し、日常的に携帯するようにしています。

さらに、安否確認システムを活用して、近年頻発しているゲリラ豪雨や大型台風発生時の社員が出社困難となる交通事情に配慮し、翌日の勤務形態情報を提供し、通勤途上の災害を防止することにも努めています。2014年10月の大型台風発生時には、緊急配置要員を除くほぼ全員が、運休や混雑した交通事情に振り回されることなく、無事に出社することができました。

今後も引き続き社員と家族の安心・安全確保に努めていきます。



防災・避難訓練の実施および各拠点へのAEDの配備

—継続的なBPR—
コムシスグループ

コムシスグループでは、各社において年に1回、防災・避難訓練を実施しています。また、万一の事態に備え、その場に居合わせた人が自由に使えるよう、各拠点にAED（自動体外式除細動器）を配備しています。

日本コムシスでは、全ビルにおいて年1回、防災・避難訓練を実施しています。2014年7月23日、コムシス品川港南ビルにて、ドコモ事業本部・NTT事業本部青山事業所・ユーザサポートセンタ・東京工事事務所合同で消防訓練を実施し、高輪消防署員より、消火器の使用方法、AEDの使用方法、緊急通報の3つについて訓練を受けました。

サンコムでは2014年9月、本社ビルにおいて、南海トラフを震源とする東海巨大地震または首都圏で大地震が発生した場合を想定し、社員安否確認、被害状況確認、衛星携帯電話での各支店の状況確認を行いました。また、備蓄品の確認や、杉並消防署員の指導のもとAEDを使った心肺蘇生体験と救命講習会を実施、併せて、保管している防災用ジャッキにて重量物排除方法の確認も行いました。さらに同年12月には、本社ビルにおいて防災・避難訓練を実施しました。

TOSYSの各事業所においても、年に1回、防災・避難訓練を実施しており、2014年度もそれぞれの地域の消防署にご協力いただき、避難誘導の指導や、消火器・AEDなどの使い方についての指導を受けました。

このほかつうけんでも、関連企業などにAEDを設置しています。



防災・避難訓練の様子



AED訓練の様子

2014年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、
ともに社会的価値を創造していくための施策

人権

相手を尊重し、信頼を築く

最も大切な人権を尊重し、多様な価値観を認め合う
職場づくりを目指しています。

□ 基本的な考え方

コムシスグループはすべての事業活動における人権と個性の尊重を基本原則として定め、従業員一人ひとりの多様な価値観を認め合い、啓発活動を通して「性別・年齢・人種・出身・宗教・障がいの有無」などに関わる差別的な言動や、暴力、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントなどの人格を無視した言動を行わないことを明示し、一人ひとりの人権を認め合う職場づくりを目指しています。

人権の尊重

○ 人権の尊重に関する取り組み

人権教育 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは基本的人権を尊重し、性別・年齢・人種・出身・宗教・障がいの有無などを理由として、業務を進める上で差別をしないことを基本倫理としています。

また、人権に対する意識を社員に浸透させるため、階層別研修などで人権教育に取り組んでいます。

ハラスメント対策 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループでは健全な職場環境を実現するため、パワーハラスメントやセクシャルハラスメントに関する研修を実施しています。また、相談窓口を設置し、早期発見と相談者への対応を行っています。

「悩み110番相談窓口」の設置 日本コムシス

—継続的なBPR—

日本コムシスの「悩み110番相談窓口」では、仕事や職場に関する相談を受け付けています。窓口の担当者以外には相談者の属性や相談内容を非公開にして相談者のプライバシーを厳重に保護し、相談者が不当な扱いを受けないよう配慮しています。

消費者課題

お客様視点で企業競争力アップ

「コムシスブランドの品質」の維持・向上を目指しています。

□ 基本的な考え方

サプライチェーン全体を通じて品質の維持・向上を図り、お客様満足の上昇と、既施工物件や製品に関する安全性を確保するためのマネジメント体制を構築します。さらに、協力会社と一体となり、安心・安全で質の高い「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を提供し続けます。

また、ステークホルダーとしてのお客様満足の上昇に向けて、さまざまな取り組みを継続していきます。

品質へのこだわり

品質保証の基盤としての品質マネジメントシステム

品質マネジメントシステム「ISO9001」

コムシスグループ

—品質へのこだわり—

「お客様に信頼され、21世紀に向けての積極的な事業展開に寄与し、豊かな高度情報化社会の発展に貢献する」ことを目的として、日本コムシスの海外本部、総合システム本部、本社NTT部門の3本部が1997年、最初に品質マネジメントシステム「ISO9001」の認証を取得しました。



上) 登録証附属書
下) 登録証

その後、日本コムシス全社全部門、サンコム、TOSYS、つうけん、COMJO各社においても「ISO9001」の認証を取得しました。品質マネジメントシステムの継続的改善に向けPDCA（Plan→Do→Check→Act）サイクルを基本に、システムの効果的な運用、お客様要求事項および法令・規制要求事項への適合の保証を通して、お客様満足の向上を目指しています。

日本コムシスにおいては、PDCAサイクルのP（計画）は、ISO「品質方針」に基づいて安全品質管理本部が作成した「年度品質目標・計画表」により活動を展開しています。品質目標は、設計不備率、写真検査欠点強度率、施工成績点などの具体的な数値を「品質管理指標」として設定しています。D（実行）においては、施工実施、班長認定、写真検査などの標準化された業務を、文書化した手順に従い実施します。これらの実施状況はC（チェック）である内部監査において確認し、内部監査のマンネリ・形骸化を打破するために、セルフチェックによる課題の抽出、監査チェックシートの見直しなど、適合性から有効性に着目した内部監査に変更し活性化を図っています。内部監査、セルフチェック、外部審査などのC（チェック）の結果・分析をマネジメントレビューやISO推進者会議などによりA（施策）に展開し、継続的改善とシステムの有効性向上を目指しています。

● ISO9001取得状況（2015年3月末現在）

	取得年月
日本コムシス	1997年12月
サンコム	1998年 5月
TOSYS	1999年 3月
つうけん	1998年 9月
COMJO	1997年12月

○ 安全品質向上のための改善活動

改善活動への取り組み 日本コムシス CSS 一品質へのこだわり

日本コムシスでは、現場を中心に共通系業務でも改善活動を進めており、良い提案を広く社内に展開することで業務改善効果を上げることが目的としています。経営層が掲げる改革施策と現場の改善活動が両輪となることで強い現場をつくり、企業競争力の向上を目指します。

CSSでは、2007年以降、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の徹底、ムリ・ムダ・ムラの排除、処理時間の短縮や業務精度向上などに着眼したカイゼン活動を継続しています。2014年度は、19チーム、125名が参加し、毎月の活動進捗報告、年2回の活動発表会を実施しました。全社の情報を共有することで、各拠点での水平展開が実現されています。この活動を通して、事務処理作業の効率化・標準化を推進し、その結果をSOP（業務処理標準手順書）にまとめ、多能工化を実現するとともにグループ内共通業務の集約化を進めています。

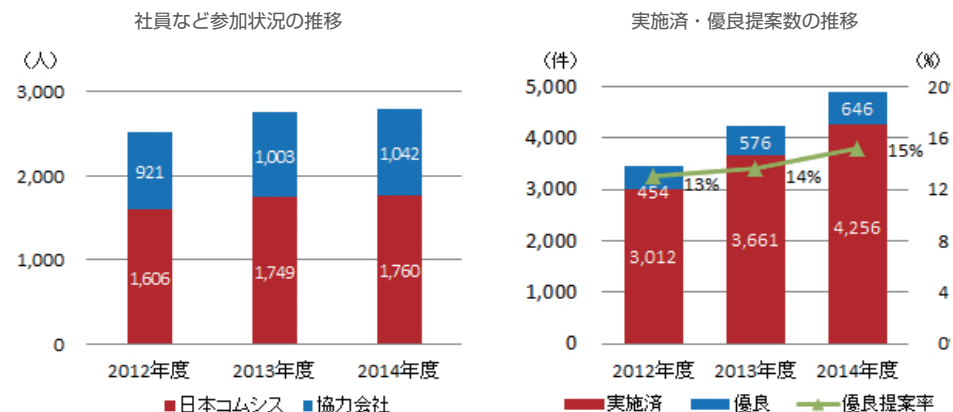
メモ提案 日本コムシス

一品質へのこだわり

メモ提案とは、現場の社員が自分の職場を良くするために仕事のやり方に創意工夫をし、その結果を提案するもので、日本コムシスで40年以上続いている社内制度です。メモ提案は1年中受け付けており、協力会社も参加しています。

2013年7月からは、これまでに集まった約30,000件の提案に、より良いアイデアを加えて提案する「まねっこ提案制度」を開始しました。自分が過去に提案した内容をブラッシュアップして再提案したり、ほかの社員が出したアイデアに各現場での創意工夫をプラスして提案することで、さらに良いやり方を模索していこうというものです。また、各提案にコメントを入れる仕組みを導入し、普段は直接顔を合わせることもない現場社員の意見を集めることが可能になりました。こうした試行錯誤により参加人数が増加し、提案の質も向上しています。

さらに、社員から出た良いアイデアは事業部だけで終わらせるのではなく、社内のWebサイトでの公開、試作品の配布などを行い、全社へ水平展開を行っています。



QC (Quality Control) 活動 日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、職場の課題をチームで解決する取り組みとして、「QC (Quality Control) 活動」を実施しています。

チーム構成は、コムシス社員チーム・コムシス社員+協力会社社員チーム・協力会社社員チームとさまざまです。

また、活動成果を共有し他部門への展開を図ることを目的として、全国改善活動発表会を年1回実施しています。大会は、TV会議やインターネット配信も利用し、会場参加できない方々にも参加機会を提供しています。

さらに、大会発表が活動目的にならないよう、年間を通じての活動や、翌年大会での成果発表にも取り組んでいます。

全国改善活動発表会を開催 日本コムシス

—品質へのこだわり—

2014年10月30日、大崎ビル会議室において全国改善活動発表会を開催しました。

会場には社員および協力会社200名と各支店からのTV会議参加者やNTTグループ各社様より来賓をお迎えし、全国各事業部から選抜された11チームと昨年度の優秀3チームが日頃の改善活動の成果を発表しました。



全国改善活動発表会2014

協力会社と一体となって改善に取り組む「チームコムシス賞」 日本コムシス

—品質へのこだわり—

2014年10月30日に開催された全国改善活動発表会において、東海支店の協力会社である株式会社アーツの「KAIZEN チーム・アーツ」が、初代の「チームコムシス賞」を受賞しました。

これは、日本コムシスの安全品質管理本部が、社員と協力会社の社員が一体となって取り組む改善活動をたたえるために新設したものです。

アーツでは、社員全員の改善意識の定着のためメモ提案目標件数を設定しています。提出されたメモ提案は、データベース化して共有されているため誰もが閲覧でき、新しい提案、改善へとつながるようになっていきます。また、社員全員が「安全に、楽しく、楽しく」仕事をするために、主体的に改善活動に取り組んでいます。

KAIZEN チーム・アーツの開発品「マジックテープカッター」

KAIZEN チーム・アーツは、NW系装置内の光コードやLANケーブルのほう縛作業に使うマジックテープを「安全に」「素早く」「鮮やかに」切るための「マジックテープカッター」を開発したことが高く評価されました。



株式会社アーツと東海支店の皆さん

光コードやLANケーブルのほう縛作業は、これまでは固定するケーブルの太さや形状により長さを測り、ハサミで切るという作業を行っており、安全面、品質面などに多くの課題がありました。こうした課題について、日本コムシスの社員とアーツの社員が一体となって考え抜き、この「マジックテープカッター」の開発につながりました。

●現場の声

東海支店では以前から「協力会社と一体となって取り組むこと」が習慣となっています。

日頃から日本コムシスの社員が現場に入りこみ、協力会社の皆さんへアドバイスを行うなど、工夫している点を見だし提案へと導く努力をすることで、今回のような改善提案の可能性は、まだまだ多く残されていると考えています。

東海支店は、今後も協力会社と一体となり、常に改善の意識を持ち続けて業務の改善へまい進していきたいと思ひます。

日本コムシス
東海支店 エンジニアリング部門 担当部長
棚橋 隆斉

COMJO現場改善活動成果発表会を開催 COMJO 一品質へのこだわり

COMJOでは2014年4月に現場改善活動を立ち上げ、仕事の中で“当たり前のこと”として取り組み、自分たちの現場力を磨き、働きがいがある、明るく楽しい現場に変革すべく活動しています。

2014年度は“現場改善活動をまず始める”を目標にスタートし、全社員の84%のメンバーが活動に取り組みました。また、2回の現場改善活動成果発表会を開催し、全社の代表15チームが成果を発表しました。

2015年度は、全員が“現場改善マインド”を持って主体的に現場改善活動を継続し、エクセレントなCOMJOの実現に向かって着実に進化を続けていきます。



現場改善活動成果発表会の様子



現場改善活動のロードマップ

確かな技術力と積極的な改善提案が高評価を受けました

一品質へのこだわり
TOSYS

2014年6月10日に開催された「情報通信エンジニアリング協会（ITEA）第57回通常総会」において、第32回技術賞、第27回SKY選奨の受賞式が行われ、TOSYSの社員4名が出席しました。

VE提案については、社員自らが日常業務における工夫・改善提案に積極的に取り組んでいます。



第32回技術賞および第27回SKY選奨の受賞式にて

また、採用された「SS - G曲りちょう架金物の改善提案」に対して、作業性・安全性が大幅に改善されたことにより、2014年6月19日にNTT東日本様より感謝状と副賞をいただきました。



「SS - G曲りちょう架金物の改善提案」への感謝状

品質向上のための技術開発

IT武装化（タブレット端末の活用） 日本コムシス サンコム —品質へのこだわり—

コムシスグループでは、建設工事の効率性、安全性および品質の向上を図るために、ワークフロー（作業工程）の統一と現場IT化を推進した「施工ITプラットフォーム」の構築を行っています。

現在、日本コムシスが手がけるNTTアクセス工事にはUSSS（ユースリーエス）・ASSS（エースリーエス）、NTTネットワーク工事にはNCPC（エヌシーピーシー）、NTTモバイル工事にはDarwin Mobile（ダーウィンモバイル）、そしてサンコムが手がけるNCC工事（New Common Carrier、NTT以外の通信工事）においてはSunMOS（サンモス）というシステムを構築し運用しております。

これらのシステムは主にタブレット端末をツールとして活用し、端末の画面に呼び出したワークフローに沿って現場作業を行います。タブレット端末は1日の現場作業と常に連動し、朝のミーティングから現場作業の撮影、さらには工程管理までを本社のサーバーによって、リアルタイムで点検、承認することが可能です。

今後は、NTT工事・NCC工事以外のITソリューション関連工事、社会システム関連工事への導入を図るとともに、さらに次のステップでは通信建設工事以外の建設工事にも展開していく予定です。



NCPC1台でネットワーク系の各種作業をサポート



NTTモバイル工事でのDarwin Mobileの利用イメージ



SunMOSにより現場状況を撮影

全数写真検査 日本コムシス つうけん

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、作業効率と品質の向上を目的とし、「全数写真検査」を実施しています。

つうけんの写真検査システムは、設計、施工、施工管理、施工班の役割を明確にし、業務をSCM（サプライ・チェーン・マネジメント＝供給連鎖管理）的に管理する「プロセス管理システム」に「写真検査システム」を連動させたシステムとなっています。

設計で設備番号単位に工程集計した設計データを、施工管理が施工班の割り付け・施工指示に活用しています。作業班は撮影指示情報（場所、撮影パターンなど）を受信し、指示情報をもとに撮影することで撮影漏れがなく、撮影後の編集稼働も一切ありません。また、撮影後の写真を施工管理が確認することで、施工品質の向上、完成図の精度向上につなげています。

2013年度より、各事業部に配属されていた写真検査員を品質保証センタに集約し、検査員の稼働、検査スキルの標準化および品質向上を図っています。また、社内システムに開設した「写真検査フォーラム」では、現場からの質問、意見提起、改善提案などへの回答、写真検査の写真撮影方法などを公開し、社内およびつうけんグループ関係者全員が閲覧できるよう情報共有を図っています。

技能競技大会を通じた作業スキルの向上 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、さまざまな技能競技大会を通じて人材の育成と品質の向上に努めています。

各競技大会は、技能者の施工技術や技能レベルを競い合うだけでなく、情報通信工事技術の向上や日々進化する材料・工法を全社へ浸透・展開させることを目的に実施しています。

各エリアの技術者を競わせ切磋琢磨させることにより、技術者のモチベーションを高め、グループ全体の技術力強化と向上および技術交流を図っています。

女性エンジニアが個人種目で優勝 TOSYS

—品質へのこだわり—

2014年7月31日、パシフィコ横浜で行われた「第9回光通信工事技能競技会」において、大会唯一の女性選手として参加した清野選手が、個人種目で見事最高点を得点し、1位タイという輝かしい成績を収めました。

本大会は全国18社の通信建設会社が出場し、各社の代表3人、総勢54人の選手が日頃現場で培った技術と練習の成果を競い合うもので、TOSYS代表の3選手が個人種目3競技と団体種目1競技に参加し、真保選手、中村選手も個人競技でそれぞれ6位に入賞し、TOSYSからの参加者全員が入賞しました。さらに、総合部門でもTOSYSチームは3位となり、質の高いTOSYSの施工技術力が広く認知されることとなりました。



個人種目で優勝した清野選手（左）と、総合3位の表彰を受けるTOSYSチーム（右）

現場力向上フォーラム つうけん

—人づくり—

NTT東日本グループ様主催の「第8回現場力向上フォーラム」が、2015年1月21～22日、NTT中央研修センタにおいて開催され、アクセス系光故障探索・修理に出場した門脇選手と金谷選手が、見事優勝に輝きました。



現場力向上フォーラムにて、金谷選手(壇上左)と門脇選手(壇上右)

第9回技能コンテストにて最優秀賞を受賞 日本コムシス

—人づくり—

2014年11月19日、栃木県宇都宮市のマロニエプラザ（栃木県立宇都宮産業展示館）にて行われたNTT東日本 栃木支店様主催の「第9回技能コンテスト」において、日本コムシス栃木支店は5種目中以下の4種目において最優秀賞を受賞しました。



第9回技能コンテスト開会式の様子

[競技種目]

- ・ フレッツ光開通工事部門（宇都宮サービス総合ユーザ班）
- ・ ビジネスホン工事部門（宇都宮サービス総合ユーザ班）
- ・ アクセス系設計チェック部門（宇都宮サービスアクセス設計グループ）
- ・ 写真検査品質チェック部門（東日本品質センタ）

※（ ）内は当社受賞メンバー

情報通信エンジニア優良団体表彰 TOSYS

—人づくり—

2014年11月18日、TOSYSは、「情報通信エンジニア資格の取得に積極的に取り組んでいる」として、一般財団法人日本データ通信協会から「平成26年度 情報通信エンジニア優良団体」として表彰されました。これで5年連続の表彰となります。



「情報通信エンジニア優良団体」表彰状

お客様満足度向上に向けた取り組み

○ お客様とのコミュニケーション

各種フォーラムへの出展

●つくばフォーラム2014 **日本コムシス** **TOSYS** **つうけん** - 品質へのこだわり -
2014年10月16～17日の2日間にわたり、NTTアクセスサービスシステム研究所およびつくば国際会議場において、「柔軟で使いやすい、進化するアクセスネットワーク」をテーマに「つくばフォーラム2014」が開催されました。

日本コムシスでは、「メタル回線遠隔測定システム (MK-3)」「新施工管理システム「NCPC」」「マルチ安全作業柵 (とう道用転落防止柵)」「備品収納箱」など、12件のさまざまなデモンストレーションや展示を行いました。

TOSYSからは、VE提案にて採用された開発品を中心に、「電柱補強板 (中間部・地際用)」「新型SS-G曲りちょう架金物」など6点のほか、川中島建設の「DKボンド工法」について展示・紹介し、多くの来場者からご好評をいただきました。

つうけんからは、「3号AOクロージャ FAS成端ケース「D」の改良」など3点を展出了しました。



日本コムシスブースの様子



TOSYS屋内展示ブース



つうけん展示ブース

●西日本ICTフォーラム2014 **日本コムシス**

2014年9月10～11日の2日間にわたり、大阪府中央区のマイドームおおさかにおいて「西日本ICTフォーラム2014」が開催されました。

日本コムシスは「お客様要望の一つ上を目指すコムシスWAY」をテーマに、コムシスの太陽光発電、ネットワーク管理を側面から支える監視カメラ、配線管理・試験システムを紹介しました。

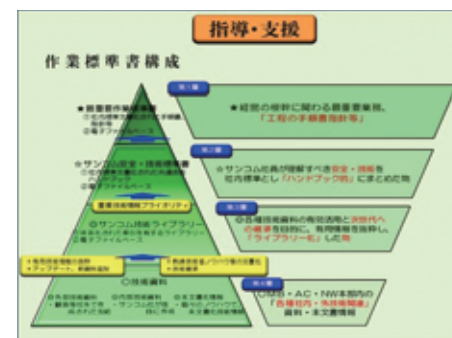


西日本ICTフォーラムの様子

作業標準書の運用 **サンコム**

サンコムが所有する、NCC (New Common Carrier) 工事に関する各種技術ならびに安全資料の有効活用と次世代への継承を目的として、「最重要作業標準書」「サンコム安全・技術標準書」「サンコム技術ライブラリー」という3つのカテゴリーに分類した「サンコム技術安全標準」を定めています。

サンコム社員およびパートナー会社全員が絶対に守らなければならないものを「最重要作業標準書」とし、カテゴリーの頂点に定めています。



作業標準書

コムシスJV石巻復興事務所を開所

—継続的なBPR—

日本コムシス

TOSYS

つうけん

2014年5月22日、宮城県東松島市に宮城県エリアの復興工事の基盤となる「コムシスJV石巻復興事務所」を開所しました。

この事務所を拠点に、コムシスグループ丸となって復興工事を進めていきます。



石巻復興事務所外観

品川ベイエリアに首都圏総合テクノステーションが完成

—継続的なBPR—

日本コムシス

日本コムシスは、首都圏において複数箇所に分散している拠点の集約を目的として、東京都港区に「コムシス品川港南ビル」を建設し、2014年4月「首都圏総合テクノステーション」として業務を開始しました。

当テクノステーションでは、アクセス事業・モバイル事業を併合し、グループ会社を含めた工事拠点を集約することで、業務効率化や広範囲での生産性向上を推進しています。



コムシス品川港南ビル外観

東信事業所開設

TOSYS

—継続的なBPR—

TOSYSでは、マネジメントのさらなる効率化を目指して、3拠点4事業所が長野県東御市に新設された「東信事業所」に拠点を統合し、2015年6月9日から本格的に業務をスタートさせました。

2014年7月にNTT様の組織見直しがあり、社外対応の移管業務がさらに多くなると考えられ、不良設備の把握および解消など、より効率的な設備づくりに努めていきます。



東信事業所外観

環太平洋諸国へのODA（政府開発援助）

サンコム

—継続的なBPR—

政府は東日本大震災後の海外向けの取り組みとして、ODAにより環太平洋諸国に日本の先端技術を導入するために、地震や津波の速報、雷検知やその他気象観測に役立つ防災関連機材を納入しています。サンコム海外部門もODA案件に取り組んでおり、地震計・潮位計・雷検知器などの設置を行っています。2015年度中にはフィジー共和国、バヌアツ共和国、ペルー共和国に防災関連システムが引き渡される予定です。



潮位計の設置

また、2015年3月14～18日に開催された第3回国連防災世界会議では、今後も日本のODAにより防災分野への協力を進める指針が発表され、サンコム海外部門も引き続き防災関連分野への取り組みを進め、貢献していきます。

2013年11月より2015年3月末にかけて、全国初となるPFI事業によるFTTH工事が行われました。

これは、2005年に岡山県苫田郡の奥津町・富村・上齋原村と鏡野町の2町2村が合併してできた鏡野町において、光ファイバー網が未整備であった鏡野地域に光ファイバーを敷設すると同時に、4つの地域の運営・維持管理を一括して行うことで、すべての地域に同等のサービスを提供するもので、設計から施工、維持管理・運営の期間を含めると17年を超える一大プロジェクトです。

このプロジェクトはPFIと呼ばれる「民間の資金、経営能力や技術能力を活用することで事業期間を通じたライフサイクルコストの削減や、財政資金の効率的な活用を目的とした」新たな手法で行われました。実施に当たっては、NTTデータ様を代表とした特別目的会社（SPC）が設立され、その一員としてコムシスも参加しました。

本プロジェクトは鏡野地域約4200世帯に対し、9カ所の中継局を建設。各利用者宅へ光ファイバーをドロップで引き込むもので、光ファイバーが開通すると、申し込み内容に応じて告知放送、テレビ放送、インターネットの3種類のサービスが利用可能となります。

高齢者の世帯が多いこの地域では、自治会長などを通し、工事開始前に幾度となく住民説明会を開き、工事の内容に納得していただけるまで説明を行いました。

また、今回のプロジェクトは、全国の自治体で初となる「パッシブ防災センサ（雨量計・水位計）の実証実験」も行われました。これは、近年頻発しているゲリラ豪雨に際して、鏡野町に整備した光ファイバー網を利用し、雨量計・水位計で収集した情報を測定・監視するもので、光ファイバーを使用するため電源不要（停電の影響なし）で低コスト、災害に強い仕組みとなっています。

このパッシブセンサーの実証実験は一定の成果を上げており、緊急時に屋外に設置した拡声器を通して危険を伝えることができるため、鏡野町民は大きな期待を寄せています。

今後も日本コムシスでは、お客様のニーズに応えた新しい技術提案を通じて、地域社会に貢献していきます。



お客様宅に設置した告知放送受信機（左）と使用方法を説明する様子（右）

富士山にLTEアンテナを設置 **日本コムシス**

—継続的なBPR—

日本コムシス東海支店では、富士山の山開き期間中にLTEアンテナを設置しています。

2014年6月にスタートした「VoLTE（Voice over Long Term Evolution）」が富士山頂でも使用でき、従来よりもクリアな音声通話が可能となっています。

ゲレンデ滑走シーン録画システムの試行運用開始 TOSYS —継続的なBPR—

TOSYSでは、ゲレンデに設置された動画カメラでスキーヤーやスノーボーダーが自分の滑走シーンを撮影できるスマートフォン・タブレット用アプリ「ゲレロク」を開発、一部スキー場で試行運用を始めました。

近年、若者の間で「自分撮り」が流行していますが、このアプリは、一人でゲレンデを訪れたスキーヤーでも自分の滑りを撮影でき、滑走後すぐにスマートフォンやタブレットなどのモバイル機器で見ることができます。新たな試みで集客力を高めたいスキー場の需要を見込んでいます。

当システムは、ゲレンデの麓などに動画カメラを設置し、コースが映るように整備。コース一帯は無料の公衆無線LAN（Wi-Fi）が使えるようにし、動画カメラとスキーヤーらのモバイル機器が通信できる環境を整えています。



ゲレンデ自動録画サービス

○ 協力会社との取り組み

パートナー会社社長連絡会・協力会社社長連絡会を開催 日本コムシス COMJO —継続的なBPR—

日本コムシスでは、2014年6月30日にドコモ事業本部、7月22日にNTT事業本部がパートナー会社社長連絡会を開催し、主要事業の動向や中期ビジョンについて説明を行いました。

また同年5月15日には、ドコモ事業本部にて協力会社社長連絡会を開催し、参加者全員で大きな目標に向かう決意を固め団結力を深めました。



ドコモ事業本部が開催した
パートナー会社社長連絡会の様子

COMJOでは、2015年3月5日、主要ビジネスパートナー会社の経営層を対象に、COMJOの事業概要、主要マーケット動向とビジネス展望について説明するとともに、今後の事業の発展・拡大に向けて協力関係を強固にするためのビジネスパートナー会社連絡会を開催しました。

環境

地球環境課題の解決に向けて

事業活動や社会貢献活動を通して環境負荷低減を目指した、
さまざまな取り組みを行っています。

□ 基本的な考え方

コムシスグループにおいては、太陽光発電システムなどの環境配慮技術を利用した事例が増加しており、情報通信と並ぶ重要な社会インフラとして、また、「事業を通じた企業価値の創出」が可能となる新たな分野として、事業活動を通じた省エネや温室効果ガスの低減を目指す取り組みに注力しています。私たちは地球市民の一人として、新たなビジネスの可能性という観点も常に持ち合わせながら、「コムシスの森づくり」など生物多様性の維持といった課題も含めた地球環境問題について、積極的に関わっていきたいと考えています。

温室効果ガスの削減に向けた取り組み

○ 太陽光発電システム導入の取り組み

自社ビルに太陽光発電システムを導入

日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

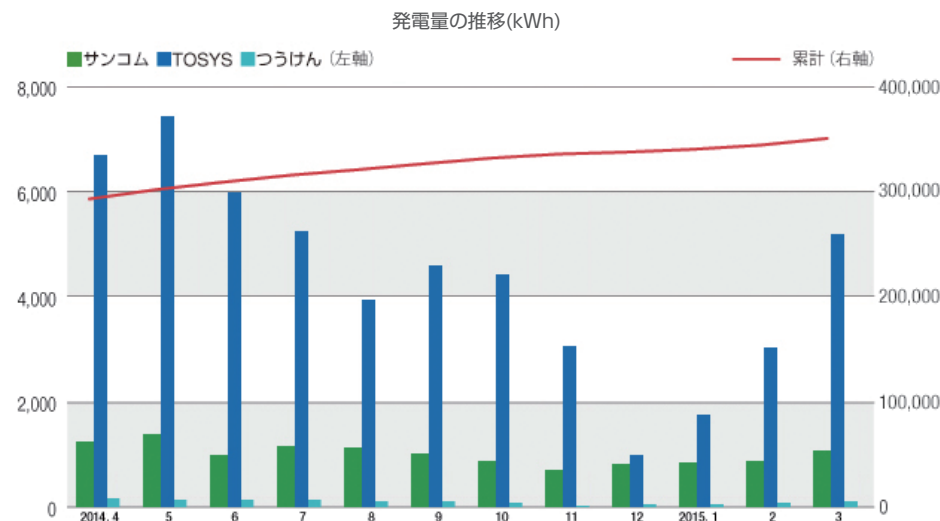
一品質へのこだわり

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入しています。日本コムシスでは、コムシス大宮ビル（最大出力5kW）、世田谷TS（テクノステーション）（最大出力10kW）に太陽光発電システムを導入し、得られたエネルギーをオフィスで利用しています。

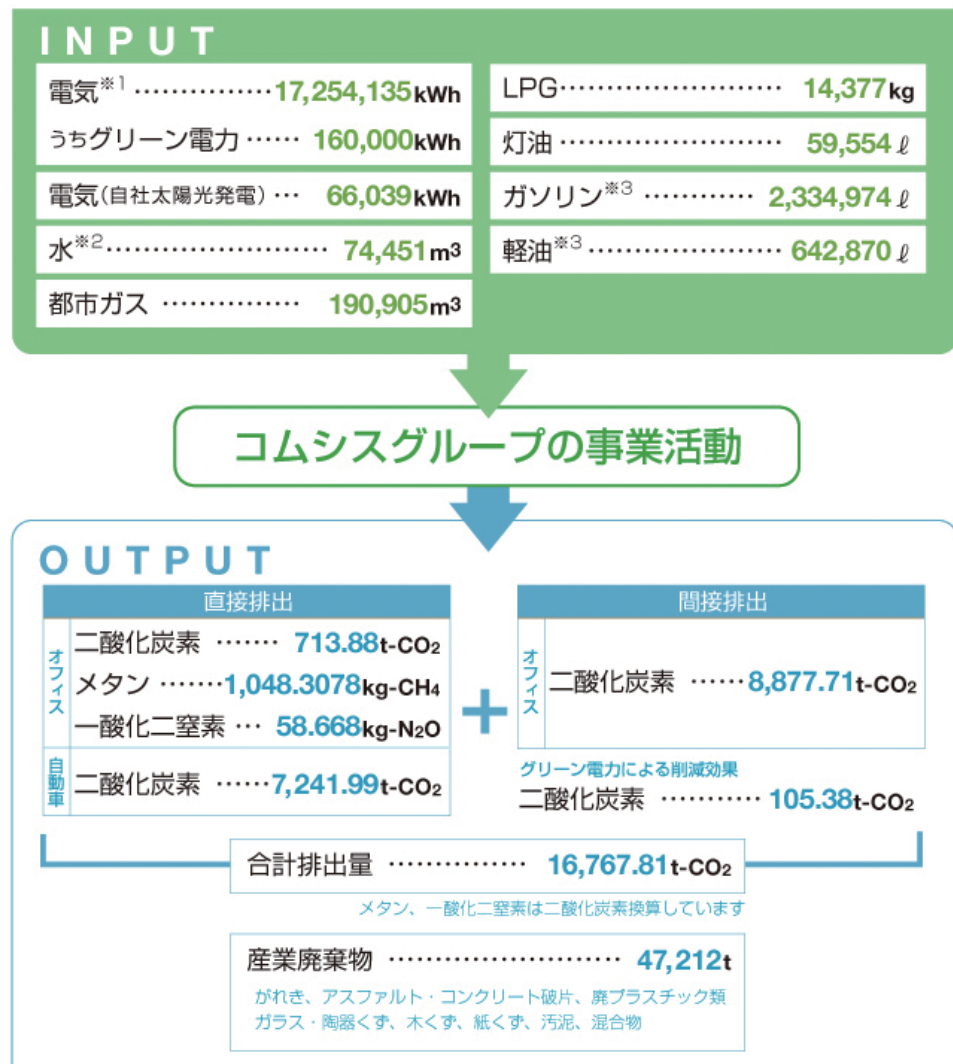


世田谷TSの屋根に並ぶ太陽光パネル

また、サンコムでは本社ビル屋上（最大出力10kW）に、TOSYSでは本社ビル屋上（最大出力50kW）に、つうけんでは厚別ビル（最大出力10kW）に太陽光発電システムをそれぞれ導入しています。2014年度はコムシスグループで約37t-CO₂の二酸化炭素削減効果を実現しました。



○ コムシスグループのマテリアルバランス



対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS（テクノステーション）

※¹：個別メーターがないフロアでは面積案分値を使用しています

※²：入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています

※³：各社のリース車両による燃料使用量を対象としています

温室効果ガスの削減に向けた取り組み コムシスグループ

—品質へのこだわり—

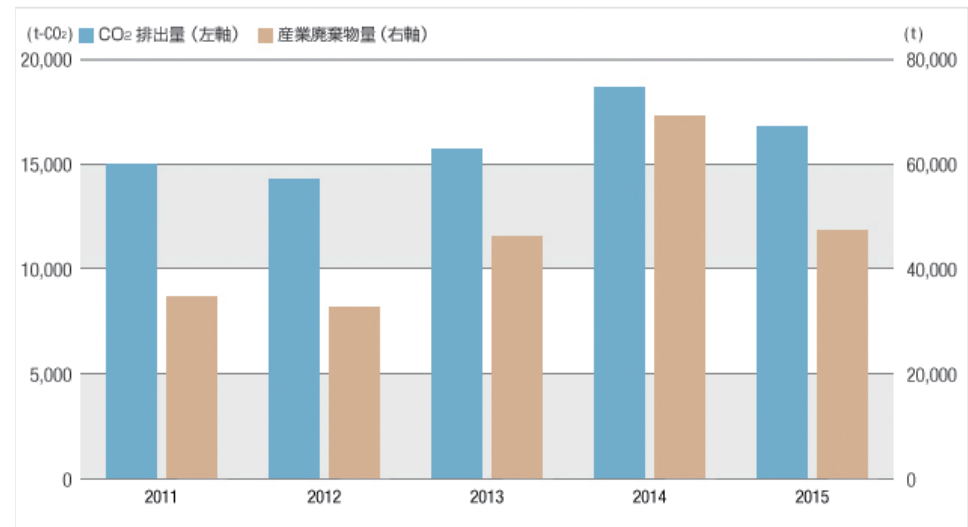
CO₂排出量の削減には太陽光発電システムの構築といった環境対応型の事業や製品を通じた方法もありますが、コムシスグループでは「ISO14001」を活用した環境マネジメントシステムを運用しながら、CO₂排出量の削減をはじめとする環境負荷の低減にも取り組んでいます。

コムシスグループの事業は「エンジニアリング事業」と「ICTソリューション」に分けられますが、業務の徹底的な効率化を図る全社的な「カイゼン」の取り組みにより、CO₂排出量の継続的な削減が図られています。作業現場では、工事作業車などのエコドライブの徹底や省エネ効果の高い作業機材の使用を通じて、また、各オフィス・作業所では節電対策など（太陽光発電システムの導入を含む）を通じて削減を図っています。

さらに、社員がボランティア参加して植林を行う「コムシスの森づくり」などを通じ、生物多様性を含む地球環境の保全に関する理解を深める活動なども続けています。

グループ全体のCO₂排出量と産業廃棄物量の推移 コムシスグループ

—品質へのこだわり—



○ オフィスその他における取り組み

タブレット端末によるペーパーレス化

日本コムシス

サンコム

COMJO

CSS

—品質へのこだわり—

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、タブレット端末を利用した高セキュリティの会議システムを社内にて構築し、自社の経営会議などで運用しています。会議体改革とペーパーレス化を実現した新しいワークスタイルで、さらなる効率化とオフィスの省資源化を目指しています。

消費電力の「見える化」

サンコム

つうけん

—品質へのこだわり—

サンコムでは、本社ビルに電力量デマンド監視装置を導入しています。各階にモニターを設置して消費電力を「見える化」し、制限電力量を超えると空調設備が自動的に出力を制御する仕組みとなっています。

つうけんでも同装置を本社ビルに設置し、設定電力をオーバーしたときにアラーム警告が発生するなど、最大需要電力量の監視・抑制を下表のように継続し、消費電力の軽減を図っています。



「見える化」による消費電力表示（つうけん）

○ 節電への取り組み

コムシスグループ

コムシスグループでは、グループ各社で節電に取り組んでいます。特につうけんでは、政府と北海道電力株式会社が要請した2010年度比6%以上の節電に対し、従来の節減取り組み（照明、空調、PCなど）を継続するとともに、さらに強化して節電に取り組み、本社および11事業所は2010年度比6%以上の節電目標を達成しました（実施期間 2014年12月から2015年3月）。

グリーン電力の購入

日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスは、日本自然エネルギー株式会社が提供する「グリーン電力証書システム※」を採用しています。2014年度は本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは本社の年間電力使用量の約7.76%に相当します。

※グリーン電力証書システム：間接的なCO₂排出量削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を、自然エネルギー発電事業者が第三者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうち、購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。



グリーン電力証書

○ 資源の有効活用に関する取り組み

工事現場におけるリサイクル用品の活用

日本コムシス

—品質へのこだわり—

日本コムシスでは、「ISO14001」の活動プログラムの一つとして、所内系全現場で工事残材・事務所内廃棄物を分別処理することにより、リサイクル資源の保護に貢献しています。

グリーン購入の推進

日本コムシス

COMJO

—品質へのこだわり—

日本コムシス、COMJOでは、環境への負荷を考慮して事務消耗品におけるグリーン購入を推進しています。

● グリーン購入率

	2012年度	2013年度	2014年度
日本コムシス	86.0%	83.2%	80.5%
COMJO	90.3%	79.1%	92.5%

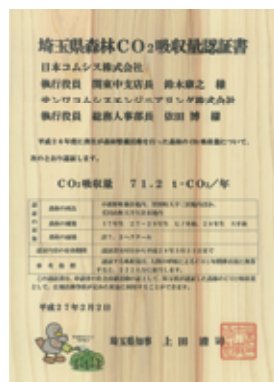
環境保全について考える取り組み

環境保護と生物多様性の維持に関する取り組み

コムシスグループの森づくり コムシスグループ

一品質へのこだわり

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、コムシス森林サポーターとしての活動を実施しています。2014年度は、埼玉県毛呂山町大谷木字鶯谷地内などでの7.2ヘクタールに及ぶ枝打ちや間伐などによる森林保全活動の実績により、同制度において71.2t-CO₂/年のCO₂吸収効果が認められ、日本コムシスとサンコムに対し、埼玉県知事より「埼玉県森林CO₂吸収量認証書」を交付いただきました。71.2t-CO₂/年のCO₂吸収量は、222人分の呼吸による年間CO₂排出量に相当します。



2014年度
埼玉県森林CO₂吸収量認定書

TOSYSでは、2014年11月8日に毎年恒例となっている「TOSYSの森林」整備作業を行いました。

当日は、社長をはじめとして新潟・長野県内からTOSYSグループ社員約100名が参加し、鎌やのこぎりを手に下草刈りや倒木の処理をしたり、傷んだ歩道や林道の整備を手際良く行いました。

こうした森林整備活動の積み重ねにより社員の自然環境保全に対する意識が向上しています。今後も、自然環境保全に少しでも役立てるよう継続して活動を行っていきます。

コムシス森林サポーターの活動 日本コムシス サンコム COMJO CSS

●「みんなで育樹活動」と共同開催
2014年11月30日、埼玉県毛呂山町において、コムシスグループ森林サポーターによる「平成26年度第1回枝打ち作業」を実施しました。

今回は、埼玉県が主催する「みんなで育樹活動」と共同で開催し、総勢約100名で作業を行いました。



枝打ち後の森を背に記念撮影

「グリーンカーテン」植栽 TOSYS

一品質へのこだわり

TOSYSの新潟ビルでは毎年、社員主導による「グリーンカーテン」の植栽を行っており、2014年度も約20名の有志によって手入れを行いました。

植物は順調に育ち1階の窓を覆い、夏の暑い日差しから室内温度の上昇抑制に役買いました。



「グリーンカーテン」植栽作業



7月30日現在のゴーヤとパッションフルーツ

緑の募金を実施 日本コムシス サンコム COMJO CSS 一品質へのこだわり

コムシス森林サポーターによる「コムシスの森林づくり」活動の一環として、年に1回「緑の募金」を実施しています。2014年度には社員からの募金が約42万円集まり、各種活動に役立てられました。

労働慣行

働きがいのある職場環境を目指して

公正で働きがいのある企業を目指し、人材育成を進め、
より良い職場環境づくりに努めています。

□ 基本的な考え方

安全衛生や品質においては、社員はもとより、協力会社の皆さんを含めた現場スタッフのスキルや仕事に対する意識、モチベーションの高さなどが大きく影響します。コムシスグループでは、「現場の視点」を尊重し、密接なコミュニケーションを通じて管理体制の維持・強化を図る一方で、「人こそ宝」という考えから、資格取得および各種研修などの機会を提供するなど「人財」の育成にも注力し、福利厚生制度の拡充と併せて働きがいのある職場環境の整備に努めています。

安心安全な業務体制

○ 労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステム コムシスグループ

ー安心安全な業務体制ー

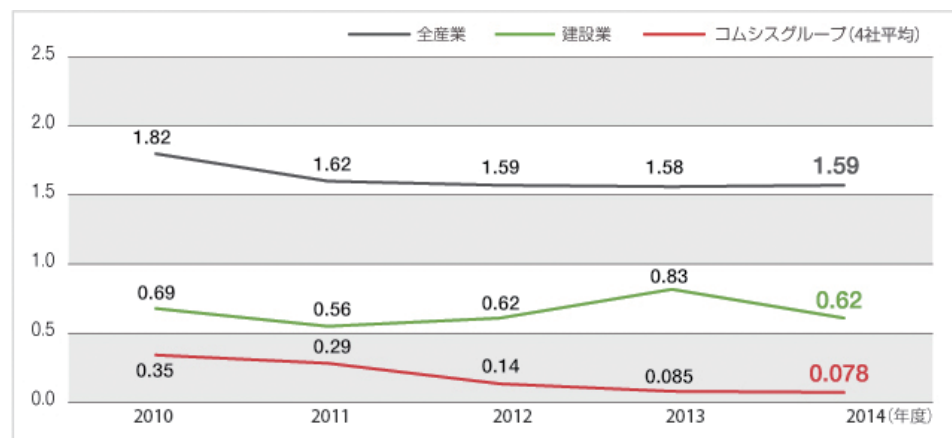
事故によって尊い人命が奪われるなどして、ご家族を悲しませることはもちろんのこと、事故が起きたことにより社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループは、情報通信エンジニアリング業界のトップブランドとして、労働安全衛生マネジメントシステムにのっとり、労働安全衛生に関する法令ならびに当社の安全衛生に関する規程を守り、全社員の協力のもと、安全衛生の確保と水準の向上に継続的に努めています。

また、日本コムシスでは、「COHSMS^{※1}」、サンコム、TOSYSでは、「OHSAS 18001^{※2}」の認証登録を行い、安全憲章や安全方針を策定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

- ※1 COHSMS (Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成したPDCAサイクルを通して、自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。
- ※2 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。

労働災害発生度数率の推移 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—



○ 労働災害・事故撲滅に向けた取り組み

安全大会の実施 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—

「安全はすべてに優先する経営の課題事項であり、経営の要」という意識のもと、各社で安全大会を開催しています。労働安全に対する意識の向上を図るとともに、各社の安全品質向上に向けた改善の取り組み発表ならびに各事業部代表による安全決意表明を行い、最後に参加者全員による「安全唱和」で締めくくり、参加者全員が事故撲滅の決意を新たにしています。また、人身事故防止に向けた危険体感デモ、自然災害や人身事故における被災者のドキュメンタリービデオの視聴などを通じ、安全への意識を高めています。

今後もコムシスグループ一丸となり、事故撲滅に向けて安全品質の仕組みづくりを行っていきます。



日本コムシス安全大会



サンコム安全大会

安全巡視などの実施 **コムシスグループ**

—安心安全な業務体制—

人身・設備事故撲滅に向けて、コムシスグループ全体で各種取り組みを展開しています。現場で作業する社員などと社長との対話を重視したパトロールを行い、特に高所作業車の使用方法や作業内容について事故防止に向けた具体的な取り組みを確認することで、作業を行う社員一人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。

また、役員が定期的に安全パトロールを実施しています。2014年度、日本コムシスでは27回の役員パトロールが行われました。

トップ安全キャラバンの実施 **日本コムシス**

—安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、安全推進強化期間中の特別施策として伊東社長が各地の現場を視察し、安全講話および現場従事者や協力会社社長との意見交換会を行っています。現場と直接コミュニケーションを行うことで、「1件も事故を起こさない」というトップの強い思いを伝えています。



現場視察の様子



意見交換会の様子（東京TS（テクノステーション））

安全は自らが作りこむもの。まずは安全確保に向けたしっかりとした仕組みを作りこむことで、安全を手に入れる — これが私たちの考え方であり、「安全創造館」はこうした考えのもとに生まれました。



安全品質管理本部では以前より、安全に関する各種施策を展開してきましたが、事故の原因を社員の皆さんおよび協力会社の社員・作業員の皆さんにじっくり考えてもらう機会はありませんでした。そこで、社員が一堂に集まり研修を行う従来のスタイルではなく、いつでもどこでもゲーム感覚で学び体験できる安全に特化した研修施設「安全創造館」をイントラネットである“comportal”上に開設しました。

安全創造館では、実際に起こってしまった自社の工事に伴う事故事例および交通事故を紹介し、その事故の原因や対策について一人ひとりに問いかけ、自らが考えるように促しています。

また、安全創造館を通じて考え、学んだことは、イントラネットにアクセスできない協力会社社員にも広めるため、安全協議会や班長会などの集会の場で体験し議論するように働きかけています。

●管理責任者の声

安全創造館開設後、各現場を訪れて安全創造館についての話を聞くと、しっかり使っていることを実感します。さらに身近な存在に感じてもらうため、情報漏えいやコンプライアンスなどの事例を充実させるなど、利用者の声を踏まえた掲載コンテンツをさらに改善・充実していく必要があると考えています。

これからも、われわれの仲間の命を守るため「安全のための人づくりと仕組みづくり」に力を注いでいきます。



日本コムシス
安全品質管理本部
安全品質管理部長
高橋 義昭

サンコムでは、「安全・品質の確保は最大の営業力であり、これを継続することがお客様からの信頼となる」を合言葉に経営幹部との安全品質向上抜本改善委員会を開催し、プロジェクトの着手前に想定される事故・トラブルの予防や事故防止対策を“安全の先取り”として議論しています。また季節特有の事故防止策などを検証し、現場の安全および品質の向上に努めています。



緑のリストバンドと標識



安全宣言ワッペン

「家族からの手紙」活動

サンコム

サンコムでは、従業員のご家族から勤務しているご主人やお父さんに宛てた「無事に仕事から帰って」といった思いや愛情を手紙に書いていただき、作業者本人が「どんなに家族の方々に愛されているか」を自覚することで、「無事に作業を終え帰宅しなければならない」と心に刻んでもらう活動をしています。



「家族からの手紙」

一斉メールシステムの導入

つうけん

つうけんでは、全国の事故情報と自社の事故情報について、NTTドコモの一斉連絡サービス「iトピックスプラス」を利用し、社内各社員・現場施工班へリアルタイムに発信し、情報共有を行っています。これにより、安全作業の意識向上・動機付けを行い、受信状況も確認することで、さらなる指導強化を図っています。

安全衛生教育の実施

安全研修の実施 日本コムシス サンコム

—安心安全な業務体制—

日本コムシスとサンコムの各事業所では、第一線の現場で働く従業員が「絶対に事故を起こさない」という強い意識のもと、危険予知の定着などを目的とするさまざまな講習を実施しています。

日本コムシスのNTT事業本部では、2014年4月19日に、コムシス足立ビル6F会議室・駐車場において、株式会社タダノ様のご協力をいただき、高所作業車ブラッシュアップ研修を、2014年10月6日にコムシス品川港南ビル3Fにおいて、ケーブル切断責任者講習を実施し、アクセス班長10名が参加しました。



高所作業車ブラッシュアップ研修

また、ドコモ事業本部では、普段、自分自身が施工に携わることのない社員に施工の「奥の深さ」を実感してもらい、施工技術を継承・維持することを目的として、2014年6月12～24日の期間に、3回にわたり協力会社社員と合同で無線施工技術研修を実施しました。



アンカー打ち施工訓練

サンコムでは、2014年度も引き続きさらなる品質向上を目指し、重大事故要因となる電源工事やアンカー施工における事故防止を目的として、全員の体に染み込むように覚えさせる体験型の基本動作の徹底の研修を全国で実施しました。直流電源模擬装置は、繰り返し研修ができるよう全国に配備し、アンカー打ち施工については、実際の全作業者の体験訓練を通して確認行動の重要性を再認識し、事故撲滅に努めることができました。

交通安全への取り組み コムシスグループ

ドライブドクターの導入と交通事故撲滅への取り組み 日本コムシス —安心安全な業務体制—

日本コムシスでは、2011年度より「ドライブドクター」を導入し、3年が経過しました。このドライブドクターの導入により、重大事故は激減しているものの、低速での軽微な事故が散見され、事故「ゼロ」には至っておりません。



ドライブドクターの利用表示

そこで2014年度は、「事故というのは予測できるもの」との考えに基づき、現場の安全意識を植え付けるための「かもしれない運動」を実施しています。これは、社員はもとより協力会社社員から募集し選定した安全標語を車両に貼付し、共有することで現場の安全意識を高めるものです。

最近の事故状況の分析では、例えば駐車場などで、車が止まる寸前で接触するなど、低速で走行していながら追突事故を起こす事例が目立ちます。その原因の一つは、わき見携帯電話やスマートフォンを見ながらの「ながら運転」によるものです。こうした実態の把握には、音声情報を拾うドライブドクターだけでは不十分なため、今後は車内カメラの搭載を進めようと考えています。事故が起きた際に、運転席、助手席の方がどのような状況だったのかを把握することで「ながら運転」の実態が見えてくるのではないかと期待しています。

実態の把握・分析を受けた「その次のステップ」として、2015年度は、事故の状況をほかのドライバーにも共有することで「ながら運転」に対するドライバーの意識を喚起するための「ながらダメダメ運動」を展開しようと考えています。

●管理責任者の声

ドライブレコーダーを導入してから事故が少なくなっていることは確かだと思います。それに加えて、「かもしれない運動」を実施していることで、大きな事故というものは年を経るにつれて極端に減ってきているのも事実です。

また、ドライブレコーダーの映像を安全衛生協議会・班長会・安全大会や「安全創造館」で再生し、安全意識を醸成させており、徐々に効果が出ていると感じています。

安全への取り組みは決して手を緩めてはいけない極めて重要なテーマであり、たとえ交通事故がゼロになったとしても、取り組み続けなければならない永遠の課題です。加害交通事故撲滅のために、取り組み内容を変えながら安全意識を高めていきたいと思っています。

日本コムシス
安全品質管理本部
安全品質管理部長
高橋 義昭

交通安全への取り組み 日本コムシス サンコム つうけん —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、事業を遂行するために多くの自動車を利用しています。

日本コムシスでは、年に数回、最寄りの警察署などから講師をお招きし、事故事例を交えながらの交通安全講習会を開催しており、参加者は交通事故「ゼロ」への決意を新たにしています。



運転適性診断の様子

また、2014年12月8日には、関西支店にて運転適性診断を実施し、支店社員42名が受診しました。その後、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の担当者様から診断結果に伴った運転アドバイスをいただきました。

サンコムでは、全国の工事車両を運転する社員を対象に全国交通安全講習を行い、交通事故予防運転の教育を行っています。さらに地域の警察署から講師をお招きして交通安全講習会を開催し、地域の交通安全を誓っています。

つうけんでは、交通事故防止へ向けた危険運転回避などを目的に、社有車両

200台にドライブレコーダーを導入しました。安全運転講習の教材などに使用し、安全運転意識の向上に努めています。

健康管理

○メンタルヘルス・マネジメントを強化

メンタルヘルス研修の実施 コムシスグループ

—安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、職場のメンタルヘルス強化の取り組みとして、職場内でのメンタルヘルスの現状やストレスと上手に付き合う方法について毎年メンタルヘルス研修を行い、ストレスケア、同僚の異変に気づく方法などの健康サポートを行っています。また、社員からの心の悩みなどについての相談は、専門家によるカウンセリングを電話や面談を通じたフォロー体制により実施し、健康管理に努めています。

メンタルヘルスチェックの実施 日本コムシス

—安心安全な業務体制—

近年、メンタル不調による休職者およびメンタル不調予備軍が年々増加の傾向にあることから、日本コムシスでは、新たなメンタルヘルスチェックを導入しました。

このチェックシステムは、本人がWebサイトで100項目ほどの質問票に答えることによって診断表が出され、診断表に記載されている自身のメンタル状態を客観的に段階別で把握できるようになっています。必要に応じてメンタルヘルスチェックの運営者（外部委託先）からフォローメールが送信され、e-ラーニングやカウンセリング受診を行うことで改善を図るシステムになっています。また、診断結果が良好な社員にも、e-ラーニングやカウンセリング受診は有効で、現在の状況を客観的に把握することによって健康状態を保つことで、本人の活性化に役立てられると考えています。

人材育成

○ 社員のレベルアップに向けた取り組み

階層別研修の実施 コムシスグループ

－人づくり－

コムシスグループでは、キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新規採用者基礎研修（グループで約100名）や、入社から1年後のフォローアップ研修（グループで約80名）、若手社員の3年目のフォローアップ研修（グループで約60名）、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。



フォローアップ研修（1年目）の様子



フォローアップ研修（3年目）の様子

新任管理職・評価者研修の開催 日本コムシス TOSYS つうけん －人づくり－

日本コムシスでは、2014年度に新任管理職として昇格した社員を対象に、新任管理職・評価者研修を実施しました。

冒頭、伊東社長より新任管理者へ期待することとして、①「自立」と「自律」②変革の「眼」と「心」③「大局観」の、3つのメッセージがありました。

また、TOSYSでは2014年4月に長野・新潟両県域で評価者研修を実施し、2会場合わせて約100名の管理者（評価者）が参加、人事評価の適正な運用を行うための研修を受講しました。

当日は、社員の業績評価や資格取得・人材育成評価に関して、管理者としてマネジメントサイクル、評価面談および部下の指導・育成を中心に研修を行いました。

た。特に、日常での社員と管理者（評価者）との対話の進め方と管理者の役割を中心に、事例を交えて日々の社員との接し方から労働基準法などに基づく法令の遵守について研修を行い、管理者としてのマネジメントの重要性について再認識しました。

つうけんでは、管理者の人材育成を目的に外部講師による管理者研修を1月と2月に実施しました。

「激しく変化する事業環境を意識し、自ら行動し会社を変革する管理者（部門経営者）を目指すために必要な意識改革および必要スキル付与を行うこと」を目的に行っており、今後も継続して実施していきます。



新任管理職・評価者研修の様子（日本コムシス）



評価者研修の様子（TOSYS）

技術伝承のための施策

●稀少技術の継承 **日本コムシス**

—人づくり—

稀少技術継承工事

技術者の高齢化を背景とした稀少技術*の継承は、通信建設業界において深刻な問題です。日本コムシスでは、1970年代に敷設された固定電話用のメタルケーブルである「スタルペスケーブル」の保守管理技術の継承に力を注いでいます。



先輩社員に作業を教わる2年目社員

日本には10万kmに及ぶ地下メタルケーブルが現存しており、これらの維持・保守は重要かつ喫緊の課題です。この技術を継承するため、日本コムシスでは若手技術者を対象に研修を実施。研修を終えた技術者は、現場での経験を積むことで技術を自分のものにしていきます。

工事現場では、時として研修時には想定をしなかったことも目の当たりにします。実際の作業員は狭くて身動きもままならない路上のマンホール内で、長い年月を経て劣化したケーブルを素手で触りながら切り替え作業をしていきます。時には雨水がマンホールに流れ込む中での作業となります。湿気に弱い紙絶縁ケーブルの扱いは熟練技術者でも神経を使う上、3,600対に及ぶケーブルは色分けがされていません。これを1本ずつつなげていくという地道な作業が続く、仮に1時間に50対つなげたとしても、夜9時から朝6時までの夜間作業では400対が限界です。

長時間の作業が続けば事故や誤接続も起こりやすくなるため、常に細心の注意が必要です。事故や誤接続防止のため、ミーティングや現場で繰り返し注意を喚起して安全意識を高めています。何よりも安全で確実な工事を行うことが前提となるため、若手技術者が作業に当たる場合には、現場経験者であるチューターの指導のもと、多少時間はかかっても若手とチューターとで二重チェックをしながら進めています。

多様な技術を備える人材が今後ますます求められていく中で、光回線で経験を積み、さらにメタルケーブルの技術も習得した若手技術者たちは、今後は「マルチ技術者」として、さまざまな場面で現場を牽引する存在になっていきます。

* 今後人員減耗などで維持が困難になると想定される、工事が少なく技術の維持が困難な技術

●チューター・メンター制度 **日本コムシス**

—人づくり—

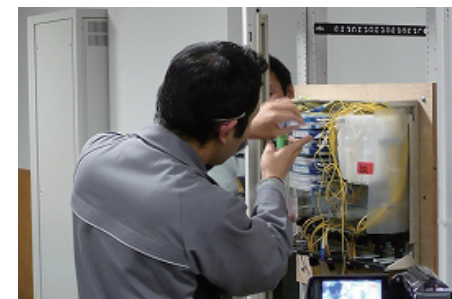
日本コムシスのNTT事業本部アクセスシステム部東京工事事務所では、発注元や現場に携わるすべての人たちに信頼され、どのような場面でも設計から竣工までを円滑にマネジメントできる柔軟な人材を育成するため、チューター制度による若手社員育成を行っています。

また、ドコモ事業本部では2008年よりメンター制度を実践しており、入社1～3年目を弟・妹、5～6年目を兄・姉、現場代理人以上を長男・長女、担当課長以上を親として役割分担し、社歴の浅い社員の支援活動を行っています。

技術向上に向けた訓練の実施 **サンコム**

—人づくり—

サンコムのネットワークエンジニアリング本部では、社員および作業者の知識的理解だけでなく、行動的理解の技術向上を図り、現場で起こり得るヒューマンエラーを未然に防ぐ「安全先取り」施策として疑似環境での実践に即した訓練を実施し、個々の技術向上に努めています。



疑似環境でのPD盤ケーブル撤去体験

班長セミナー開催 **日本コムシス**

-人づくり-

日本コムシスでは、すべての認定班長に対し、現場第一線の監督者として、指示処分、改善勧告阻止に向けた人身・設備・交通事故を絶対に起こさない意識の育成をはじめ、現場指導力の向上のため、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行っています。



班長セミナーの様子

CS向上研修を実施 **日本コムシス**

-人づくり-

日本コムシスでは、宅内工事におけるお客様満足度（CS）向上を目指し、一般常識的なマナーからお客様対応時のマナーまでを再確認し、一人ひとりの意識を高めるためのCS向上研修を実施しています。

システム基盤構築研修を開催 **COMJO**

-人づくり-

COMJOでは2013年度に引き続き、システム基盤構築の研修を実施しました。研修では、LinuxベースのWebシステム構築技術、システム基盤の設計手法など、ソフトウェア開発以外の新技術を中心に、実習を交え、より実践に近い最新技術を学びました。



システム基盤構築研修の様子

プロジェクトマネジメント研修を開催 **COMJO**

-人づくり-

COMJOでは、プロジェクト管理レベルの向上、不採算プロジェクトの撲滅を目的に、プロジェクトマネジメントスキルを高める研修を行っています。

2014年度は、外部講師を招いて、プロジェクトリーダーを中心に「プロジェクトマネジメント研修」「見積研修」を開催し、合計81名が受講してスキルの向上を図りました。

各種研修の開催 **CSS**

-人づくり-

CSSでは2014年度、部下の管理に重点を置いたメンタルヘルス研修およびハラスメント研修を、外部講師を招いて実施しました。

メンタルヘルス研修では、課長以上の管理職および、直接部下を指導しているプロジェクトリーダーを受講必須とし、25名が参加しました。パワーハラスメントとセクシャルハラスメントを中心としたハラスメント研修では、管理職と一般職に分け、86名が受講しました。

今後もさまざまな研修を通じ、グループ内外のお客様に一層信頼いただけるサービス提供、人材育成を目指します。

優良派遣事業者認定への取り組み **CSS**

-人づくり-

2015年3月、CSSは、平成26年度厚生労働省委託事業「優良派遣事業者推奨協議会が定める「優良派遣事業者」に認定されました。

今後もさらなるサービス向上に取り組み、お客様やスタッフの皆さまにご満足いただけるサービスの提供をお約束します。



コムシスグループ各社では、社員の資格取得に積極的に取り組んでいます。

日本コムシスでは、業務に関わるさまざまな資格取得を推奨しており、資格の種類によっては取得に際して一時金を支給しています。

主な資格保有者数は2,735名で、中でも、技術士11名、ITコーディネータ5名、シスコ技術者認定 CCIE 86名、LPI OSS-DB Gold 2名、Red Hat Linux 認定技術者 RHCA 1名、VMware社認定VCI 2名、VMware社認定 VCAP 3名を主要資格として位置づけています。このうち、2014年度の取得者数は、ITコーディネータ2名、シスコ技術者認定 CCIE 10名となっています。

サンコムでは、年間教育訓練計画書に基づき、毎年数多くの社員が資格を取得しています。

2014年度における主な取得は、AI/DD総合種（工事担任者）4名、衛生管理者（第1種）1名、建設業経理士（2級）2名、情報処理技術者（情報セキュリティスペシャリスト）1名、電気工事士（第1種）9名、電気工事士（第2種）17名、電気工事施工管理技士（1級）2名、建築施工管理技士（1級）2名、技術士補1名、陸上無線技術士（1級）2名、陸上特殊無線技士（1級）24名、秘書技能検定（1級）1名、簿記2級1名、衛生管理者（1種）1名の合計68名となっています。

TOSYSでは、会社が推奨する資格取得については取得費用を負担するとともに取得一時金を支給しており、また、社外研修会や講習会へ積極的に参加することによって、一般財団法人日本データ通信協会から「情報エンジニアリング資格の取得に積極的に取り組んでいる」として表彰されました。

2014年度の主な資格取得としては、工事担任者が8名、第1級陸上特殊無線技士が3名、第2種電気工事士が4名、1級電気工事施工管理技士、1級土木施工管理技士が各1名の合計17名となっています。

つうけんでは、2014年度に1名が1級電気工事施工管理技士の資格を取得し、累計資格取得者総数は23名となりました。

COMJOでは、2014年度において、プロジェクトマネジメントに関する国際資格「PMP（Project Management Professional）」を1名、JAVA、C言語プログラミング能力認定を12名、Oracle認定資格を15名、情報処理技術者を11名が新たに取得し、主要資格保有者数は延べ743名となりました。

CSSでは、資格取得費用を会社負担にするとともに、指定した資格については、資格取得奨励金として一時金を支給しています。また年間定額セミナーを外部教育機関と契約し、業務の繁忙時期と調整しながら、社員が自己啓発のため自主的にセミナーを受講できるような環境を整えています。

2014年度の実績としては、個人情報保護士を1名、第一種衛生管理者を2名、マンション管理士を1名が取得したほか、経理・財務スキル検定「FASS/レベルB」を2名、建設業経理士検定試験2級を4名、ファイナンシャル・プランニング3級を1名、秘書技能検定試験を3名が受験し合格しています。

従業員とのコミュニケーション

○ 経営層と社員とのコミュニケーションの促進

社長対話会の開催 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションを図ることができる「対話会」などの交流の場を設けています。それぞれが「垣根」を取り払い、さまざまなことについて気兼ねなく話し合える有意義な機会として、積極的に活用されています。

日本コムシスでは、社長が全国各地の支店や現場を訪問し、日頃の安全に対する意識、新規ビジネスに対する思いなどについての講話や社員および協力会社社員との対話会を行いました。

つうけんでは2014年度より、社長が「意見交換」と称して全職場を巡回し、社員と直接コミュニケーションをとって意見交換を図っています。この活動は2015年度以降も継続していきます。

COMJOでは、日頃お取引先に常駐しているメンバーを集め、社長や経営幹部が経営課題やカイゼン活動への取り組みなどについて直接話し合う職場訪問や対話会を開催しました。また、社長や経営幹部がお客様訪問のため支店に出張する際も、支店社員を対象に対話会を実施しています。

本部長などとの意見交換会を実施 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスNTT事業本部では、各工事事務所において本部長キャラバンを実施しており、工法の遵守、基本動作の徹底について注意喚起を行っています。

またドコモ事業本部では、年2回、現場代理人と本部社員を交えて現場代理人会議を行っており、本部長より安全に関する注意喚起や各部門長から最新の業務状況について説明しています。



現場代理人会議の様子

ホットラインを開設 日本コムシス TOSYS COMJO —継続的なBPR—

日本コムシス、COMJOでは、マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。またTOSYSでは、風通しの良い職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については、関係部門で対応策を協議し、改善に努めています。

ダイバーシティの推進

○ 社員の働きがいについての取り組み

シニアエキスパート制度を導入 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループでは、定年退職（満60歳）後に勤務する意欲があり、雇用基準要件を満たす人材を継続して雇用する「シニアエキスパート制度」を導入しています。長く勤務したベテラン社員の熟練した技術や知識を若い世代に継承するために重要な制度であると位置づけ、2015年3月末時点では、グループ全体で492名のシニアエキスパートを雇用しています。

また、社員を対象としたライフプラン研修も行っています。これまでの人生と今後の働き方について考え、一個人として充実した豊かな人生を送ることを目的としています。

女性が活躍できる職場づくり

次世代育成支援対策推進法に基づく取り組み コムシスグループ ～人づくり～

コムシスグループ各社において「次世代育成支援対策推進法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは2008年に、サンコムでは2011年に「次世代育成支援対策推進法認定マーク（くるみん）」を取得しました。2014年度は、日本コムシスで15名が育児休業を取得したほか、サンコム2名、TOSYS3名、つうけん1名、COMJO1名、CSS2名が育児休業を取得、また各社において育児休業に伴う短縮勤務を実施しています。

ワークライフバランスの推進

エリア職社員制度を導入 日本コムシス サンコム COMJO CSS ～人づくり～

日本コムシス、サンコム、COMJOでは、地元志向の優秀な人材の確保と定着を目指し、勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能となりました。

この制度を利用し、2015年3月末現在、日本コムシスでは99名、サンコムでは52名、COMJOでは37名、CSSでは1名のエリア職社員が在籍しています。

サンコムでは、2014年4月の組織改編において、新たに「業務推進部」を立ち上げ、営業系とエンジ系のバックヤード業務を一元管理して業務効率化を目指しました。

業務推進部長には、サンコムで初めて女性管理職を登用し、女性が幅広く活躍できる職場環境をより一層整えました。

この1年間、バックオフィス機能向上の取り組みとして、「抜本対策業務プロセス改善」プロジェクトを立ち上げ、業務プロセスを改善しました。今後とも業務処理分野においてもワンステップの向上を図っていきたいと考えています。

〔主な取り組み施策〕

- （営業部門） ●各営業部門へのヒアリングおよび業務フローの確認調整
●入金処理の早期化に向けた取り組み
- （エンジ部門） ●外注電子契約、請求拡大（支店展開）に向けた取り組み
●外注compactシステム導入の使用促進
●完成計上の適正化に向けたチェック方法の取り組み

●サンコム初の女性管理職として業務推進部長に就任

現在、業務推進部は男性社員5名、女性社員8名、派遣社員3名の総勢16名にて、バックヤード業務の効率化を目指し全員で日々取り組んでおります。

サンコム全体における女性比率は7%ですが、業務推進部では62%と、女性比率の高さではNo.1を誇っております。

女性が働きやすい職場は男性も働きやすいと信じ、職場環境の改善と、バックヤード業務を正確にきめ細かくサポートができる集団になれるようにと考えています。

女性管理職が珍しくなくなるように願うとともに、道を開く努力をしております。



サンワコムシスエンジニアリング
業務推進部長
篠原 知子

○ 総労働時間縮減への試み

長時間労働の解消に向けた労使間の取り組み コムシスグループ －人づくり－

コムシスグループ各社の労働組合は、情報産業労働組合連合会と連携しながら組合活動を行っていますが、春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚のない意見交換を行うなど、これまで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。

サンコムでは、恒常的な時間外労働の削減に向けて、毎週水曜日と金曜日の2日を定時退社日に定め、社内放送にて促しています。また、「時間外勤務命令管理簿」の活用により、労使間の勤務管理を徹底しています。このほか、有休取得推進のため、年間を通じての「ブリッジホリデー」（法定休日の間を年次有給休暇でつないで連休とするもの）を推奨しています。

TOSYSでは、長時間労働と恒常的な時間外労働を削減するために、労使間で定時退社日（水曜日）、年次有給休暇取得推進週間などの各種施策を通じて、従業員のリフレッシュを図っています。このほか、水曜日の定時退社日を活用した職場でのレクリエーション（ボウリング大会）なども実施しています。

つうけんでは、労使間で密接な話し合いを行いながら、毎週水曜日を「ノー残業デー」に設定しているほか、長時間労働者への医師による面談・指導を法令で定める以上に充実させるなど、時間外労働の削減に積極的に取り組んでいます。

COMJOでは、長時間労働による健康障害防止のため、深夜勤務・休日勤務の勤務管理者からの事前確認を徹底するなど、きめ細かな対応をすることにより、所定外労働の削減に努めています。年間所定外労働時間の削減に向けた取り組みを全社的に進めた結果、2014年度には前年度と比較して10%の削減を実現しました。

○ 公正な人事評価・給与体系

成績に対するフェアな評価の実践 コムシスグループ －人づくり－

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みを積極的に行っています。各社で導入している目標管理制度では、上司と部下が面談する機会を設け、事業目標を共有した上で、各個人が実現可能なより高い目標を設定しています。評価については、個人の成果を数値化することにより公平性と透明性を確保し、組織単位での業績貢献度も加味するなど、多角的視点を取り入れています。業績と職務能力を公平かつ的確に評価できる制度とすることにより、社員のモチベーション向上に努めています。

公正な事業慣行

オープン・フェアな企業文化

公正で堅実な事業活動を通じて
パートナーシップとコミュニケーションを構築します。

□ 基本的な考え方

コムシスグループで働く一人ひとりが事業を堅実に遂行するために、コンプライアンスの徹底、情報セキュリティとリスクマネジメントの強化に取り組んでいます。お取引先との相互理解と信頼関係の構築に努め、より良いパートナーシップによる公平・公正な取引を徹底し、企業価値経営の実践、積極的な情報開示、コミュニケーションの充実をお約束します。

コンプライアンス

○ コンプライアンス体制

コムシスグループ行動規範 コムシスグループ

—継続的なBPR—

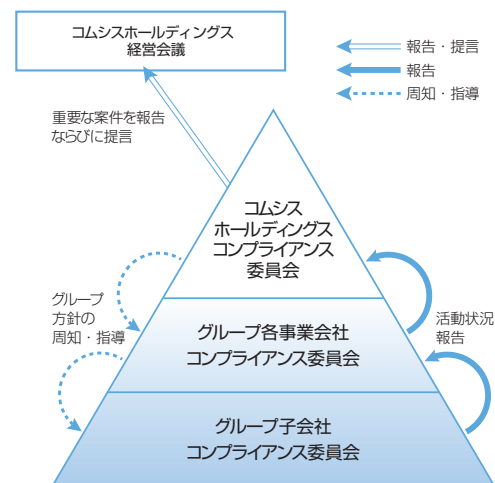
コムシスグループにおけるコンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）を徹底するためには、グループ各社の従業員一人ひとりがコンプライアンス行動指針に基づいた日常行動を徹底することが求められます。コムシスグループの役員・従業員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を2010年3月に制定し、グループ各社の従業員全員が実践すべき行動を示しています。

コンプライアンス推進体制の整備 コムシスグループ

—継続的なBPR—

2004年1月に制定された「コンプライアンス・プログラム」に基づき、コムシスグループのコンプライアンス体制の構築・強化に取り組んでいます。本プログラムで定めた「コンプライアンス行動指針」を、グループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規程などに反映しています。また、グループ各社のコンプライアンス担当役員、社外監査役などをメンバーとした「コンプライアンス委員会」を定期的に開催し、各社からの活動状況などの報告により情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



○ 相談・通報体制

「コンプライアンス相談窓口」の設置 コムシスグループ －継続的なBPR－

コムシスグループ各社の社員が日常の行動において判断に悩んだときの相談・通報窓口として、「コンプライアンス相談窓口」を設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として法律事務所の利用が可能です。寄せられた相談・通報については、コンプライアンス委員会にて社外の有識者から助言や提言をいただくなど、適切なフィードバックに努めています。

公益通報制度を運営 コムシスグループ －継続的なBPR－

コムシスグループでは、コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、「公益通報者保護規程」を策定しました。これは公益通報者保護法と内閣府のガイドラインに基づき、社員や契約社員、嘱託社員、派遣社員からの通報により、組織的または個人的な法令違反行為などの早期発見と是正を図ることを目的とし、公益通報制度を適正に運営するためのものです。

リスクマネジメント

リスクマネジメントの方針 コムシスグループ －継続的なBPR－

企業活動は、さまざまな外部および内部的発生要因により大きな影響を受けることが想定されます。グループの経営ビジョン実現に向けた経営活動を持続的に発展させるためには、グループを取り巻くリスクを的確に管理していくことが求められます。そのため、日頃から事業活動に付随するリスクを適切に把握し、危機発生時の回避と万一の場合の事前準備を社会的責任の一つとして受け止め、リスクマネジメントに取り組んでいます。

○ 情報セキュリティ

e-ラーニングなどで情報保護に関する教育を強化 コムシスグループ －安心安全な業務体制－

コムシスグループでは、個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のための社員教育にも注力しています。e-ラーニングでは情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員各自がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップを図っています。

●コムシスグループ各社のe-ラーニング受講修了率

	2012年度	2013年度	2014年度
日本コムシス	98.4%	98.9%	99.5%
サンコム	97.9%	97.0%	99.7%
COMJO	99.5%	100%	100%
CSS	100%	100%	100%

個人情報保護とコンプライアンスに関する教育 コムシスグループ －安心安全な業務体制－

近年、現場を取り巻く環境において、法令遵守はもとよりマナーやモラルについても高いレベルが要求されています。

日本コムシスでは、新入社員研修および各階層の研修において、コンプライアンスの事例やクイズを交えた講義により、知識の定着を図っています。

サンコムでは、情報セキュリティ研修を社員およびパートナー会社を対象に年2回実施し、情報保護への強い意識の継続を繰り返し教育で実施しています。

2014年度は全国で2,321名が受講し、「情報セキュリティインシデント」の発生によるお客様や社会に与える影響度について研修DVDを活用し、情報取り扱いの大切さに対する理解を深めています。最後は理解度テストにて情報保護徹底の確認をしています。

TOSYSでは、毎年個人情報保護・コンプライアンスについて全従業員を対象に研修を行っています。



研修会の様子

つうけんでは、社員およびグループ会社社員を対象として、年1回情報保護に関する教育を実施し、個人情報管理の重要性および社員個々人のモラル・意識向上の醸成を図ることにより、個人情報の漏えい・紛失などの事故防止に向けて取り組んでいます。

2014年度も身近な話題の事例を挙げ、日常業務におけるルールに重点を置き実施しました。企業としての社会的責任の重要性を浸透させるとともに、従業員が自発的に取り組むような企業風土づくりを展開しています。

プライバシーマーク制度の認定についても、今回で6回目の更新を行うなど、情報保護について取り組みを継続して実施しています。

CSSでも毎年、個人情報保護について全従業員を対象に研修を行っています。プライバシーマーク制度の認定は過去に4回の更新を行っており、情報保護の取り組みを継続して実施しています。

お客様情報の漏えい防止をシステム化 コムシスグループ —安心安全な業務体制—

コムシスグループでは、お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのPCの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

情報セキュリティの点検を実施 COMJO —安心安全な業務体制—

COMJOでは、お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員がお客様の各現場まで出向き、守るべきルールと遵守状況などを点検しています。また、主要パートナー会社を対象にアンケート形式での二者間監査を行い、情報セキュリティに対する各社の取り組みを確認しています。

公正な競争・取引の実践

○ 調達の基本方針

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定しています。法令遵守のもと、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

日本コムシスにおける調達の基本方針 日本コムシス

—継続的なBPR—

▶ 公平・公正な取引

お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性などを総合的に評価して公平・公正に行います。

▶ 法令・社会規範の遵守

法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。

▶ 品質の確保

当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。

▶ お取引先との良好なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。

▶ 機密情報の保護

取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。

2014年度活動報告

ステークホルダーのさまざまな期待に応え、
ともに社会的価値を創造していくための施策

コミュニティへの参画

地域とともに育てていただく

社員一人ひとりが社会とのさまざまなコミュニケーションを通じて、
ともに成長していくことを目指します。

□ 基本的な考え方

良き企業市民として、社会の要請と信頼に応え、国内外において自社の事業を通じた社会貢献活動を通しコミュニティへの参画を推進しています。さらに、地域社会の一員として地域の皆さまとのコミュニケーションを深めるとともに、地域貢献に向けたさまざまな取り組みを行っています。

コミュニティへの積極的な参画

○ 教育・文化・スポーツ面での貢献

インターンシップを実施 日本コムシス つうけん

-人づくり-

日本コムシスでは2014年11月と2015年2月に、通信建設業界の認知度向上のため「日本コムシス1Dayインターンシップ」を開催しました。

アクセスとモバイルの2コースを実施し、総勢76名の学生が参加しました。



日本コムシス アクセス実技の様子

学生の皆さんからは、「実技が面白く、夢中になってやった」「モバイルの話をもっと聞きたかった」など好評をいただき、満足度の高いインターンシップを行うことができました。



つうけん 現場での説明

つうけんでは、インターンシップを9年継続して実施しています。2014年度も8月に1週間、北海道内の大学2校から2名の学生を受け入れ、事業概要説明のほか、各事業部において現場見学、光ケーブルおよびメタルケーブルの接続演習などを行いました。

また、11月11～14日までの4日間、北海道北見工業高等学校から6名の学生を迎えてインターンシップを実施し、光ケーブルおよびメタルケーブルの仕組みおよびインターネットや電話が開通するまでの仕組みを説明しました。さらに、つうけんの業務内容を理解していただくために会社概要などを説明し、研修を終了しました。

これらのインターンシップを経て、2010年度から2014年度にかけて毎年1～2名の社員が入社しています。

子ども向けパンフレット「サンコムのごと」作成 サンコム 一人づくり

サンコムでは、「お父さん、お母さんがどんな仕事をしているんだろう」をテーマに、写真や絵をふんだんに使用した小学校低学年向けの冊子「サンコムのごと」を作成しています。



「サンコムのごと」

親子パトロール 日本コムシス 一人づくり

日本コムシスNTT事業本部アクセスシステム部青山事業所では2013年度に引き続き、「新しいビルでのお父さんの仕事ぶりを見ていただき、一層、ご家庭の絆を深めていただこう」との趣旨のもと、「第2回夏休み親子パトロール」を開催し、8家族24名に加えて事務所スタッフ6名の計30名が参加しました。



参加した親子の皆さん

まずはじめに安全旗にサインをし、オリエンテーションでは電話の仕組みを学び、糸電話を体験。株式会社タダノ様のご協力による高所作業車への搭乗体験、倉庫システムの見学、お父さんのデスク見学、電柱の高所作業現場パトロール、本社訪問と主管部幹部との意見交換会と、盛りだくさんの1日を過ごしました。

意見交換会では、「働いているお父さんは立派だ」「夏休みの絵日記に書く」「お父さんのような仕事がしたい」などの意見があがりました。

地元小学校に図書購入費用を寄付 日本コムシス 一人づくり

日本コムシスグループのコムシスエンジニアリングでは、2006年より地元への貢献施策として、特に杉並区立杉並第三小学校の児童教育推進に役立てていただきたく、毎年、図書の贈呈または購入費用の寄付を行っています。



杉並第三小学校へ図書購入費用贈呈

2014年度も同様に、2014年5月12日同校を訪問し、図書購入費用として10万円を贈呈しました。

同校の校長先生からは、「毎週1回、保護者による図書の朗読の時間があり、それらの図書の購入などに役立てています。ありがとうございます」との感謝の言葉をいただきました。

○ さまざまな活動を通じた貢献

地域の子どもの安全に関する取り組み

日本コムシス

サンコム

一人づくり
TOSYS

日本コムシスでは、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会で取り組んでいる「こども110番活動」をサポートしています。工事用車両に「車こども110番」のステッカーを貼ることで、工事エリアでの地域の防犯に協力しています。



サンコム 古高松南小学校からの感謝状

サンコム四国支店では、2013年より地域の青少年健全育成を目的に、古高松地区において小中学生の通学の安全を確保するため地域住民や地元企業と協力をして子どもSOSの活動を行っており、毎年小学生からお礼のお手紙をいただいています。

また、TOSYSでも、社会貢献活動への参加意識を高めることを目的とし、工事用車両に子どもが見やすい位置にステッカーを貼り、走行中および工事中に駐車している車両に子どもが助けを求めてきた場合は、保護者や学校、警察などに連絡するといった取り組みを実施しています。

ペットボトルキャップ回収 コムシスグループ

—人づくり—

コムシスグループ各社では、ペットボトルのキャップ売却益をワクチン購入費に充てるNPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同し、キャップの回収を行っています。CSSが中心となり、2014年度は合計116.8kgを回収しました。

ブックキフ活動 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、不要になった本を集めてブックオフコーポレーション株式会社に売却して寄付する「ブックキフ」活動を、2010年度から半期に一度実施しています。

2014年度にも継続して実施し、本やDVDなどの売却額7,725円を、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンに寄付しました。

●ブックキフの実績

2012年度	2013年度	2014年度
8,746円	10,405円	7,725円



集められた本やDVD



ピースウィンズ・ジャパンからのお礼状

募金活動 日本コムシス

—人づくり—

日本コムシスでは、2014年8月20日未明の集中豪雨により被災された広島市安佐北区および安佐南区の復興を願い、募金活動を行いました。集まった義援金は、マッチングギフト（会社による増額負担）の支援を受け3,184,000円となり、その全額を広島市に寄付しました。

国境なき医師団への支援 CSS

—人づくり—

CSSでは、社会貢献型自動販売機を利用することにより、自動販売機業者を経由して「国境なき医師団」への寄付をしています。2014年4月～2015年3月までの寄付金額は、398,128円でした。

この金額は、はしかの予防接種なら約15,900人、難民キャンプで必要な清潔な飲料水約16,000人分に相当します。自動販売機の設置をお願いしているお客様へは「設置費用」、ドリンクを飲んでいる皆さんには「低価格でのご提供」、そして、意識することなく自動的に「国際貢献」が実現できるWin-Win-Winが成立しています。



飲料購入を通じて金額の一部が寄付される自動販売機



「国境なき医師団」からの感謝状

全国各地で清掃・美化活動 コムシスグループ

～人づくり～

コムシスグループでは、全国各地において清掃・美化活動に力を入れています。地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども定期的に行っています。

日本コムシスでは、2014年10月26日の「第4回大阪マラソン（OSAKA MARATHON 2014）」開催に合わせ、「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」と称して、10月21日に谷町ビル周辺および10月24日に森ノ宮ビル周辺の清掃活動を、総勢80名を超える勤務者で行いました。

サンコムでは、2007年秋に本社を目黒区青葉台から杉並区高円寺へ移転して以来7年以上、毎週第1および第3水曜日に、本社前清掃を実施しています。地域の皆さまからもお褒めのお言葉をいただき、より一層の地域社会への貢献を目指しています。

TOSYSでは、2014年5月6日の鳥屋野潟一斉清掃（新潟）、10月4日の屋島河川敷清掃（長野）にそれぞれ社員と家族ら約70名が参加し、ゴミ回収活動を行いました。

屋島河川敷清掃でのゴミ回収量の目標は200kgでしたが、現地のゴミも年々減少してきたようで、今回は可燃・不燃物合わせて約100kgのゴミを回収しました。ゴミの回収量は減少傾向となっていますが、まだまだゴミが投棄されていることから、少しでもポイ捨てが減ることを願い、また小さな輪から大きな輪に広がるよう環境意識を深め、継続して回収活動を行っていきます。

つうけんでは、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、地球環境にやさしい事業活動を通して、地域社会へ貢献することを目指しています。

2014年度は、札幌市の白石区役所と「まちづくりパートナー協定」を締結している「白石区ふるさと会」が主催する地域環境美化活動に参加しました。今回の取り組みは「白石こころード（旧白石サイクリングロード）における環境美化活動」というもので、白石区で事業を営んでいる企業などが多数参加し、つうけんは南郷通19丁目から20丁目までのサイクリングロードの清掃を担当、本社から18名が参加しました。



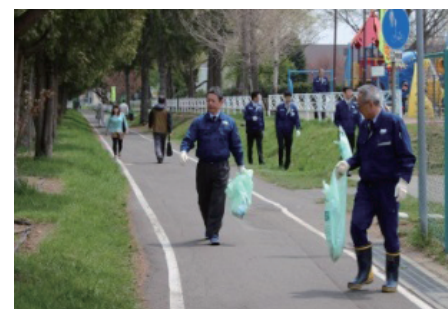
日本コムシス「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」
清掃活動



TOSYS 河川敷不法投棄ゴミ回収活動



つうけん「白石区ふるさと会」が主催する
地域環境美化活動



「白石こころード」の清掃活動

地域社会との交流

○ 地域交流イベントを開催

ドリームフェスタ2014の開催 TOSYS

一人づくり

TOSYSでは、2014年9月20日、長野市真島総合スポーツアリーナ「ホワイトリング」において、通算22回目を迎えた「TOSYSグループ ドリームフェスタ」を開催しました。

当日は、社員が提供したチャリティーグッズの販売、各事業所の地域特産品販売による楽市、子ども広場など、地域の皆さまとの交流を図るイベントと、TOSYSグループ、日本コムシス、COMJO、炭平コンピューターシステムの社員によるスポーツ大会を開催し、グループ内の交流を図り、親睦を深めました。

本フェスタには約1,000名の地域の皆さま、社員と家族が訪れ、大盛況の中で幕を閉じました。

また、チャリティーバザーや楽市での収益金は、会社のマッチングギフトと合わせて、9月27日に発生した御嶽山噴火災害の義援金として長野県木曾郡王滝村に寄付しました。さらに新潟県新潟市の福祉事業に役立てていただくため、新潟市福祉部子ども未来課へ移動式授乳用テント（目録）を贈呈しました。



バザーの様子



王滝村への義援金贈呈



新潟市福祉部子ども未来課へ
目録贈呈

○ 地域イベントへの参加

地域の祭事への参加

日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

一人づくり

日本コムシスの北海道支店では、きれいな公園を多くの方に見に来ていただこうと、「ミニ大通 お散歩まつり」を周辺企業と共催しています。お祭りには周辺企業だけでなく、近くの学校や個人・団体も参加しており、物販・飲食の出店やフリーマーケットが催されます。日本コムシスでは、OBの方にご協力いただき、毎年とれたての野菜の販売を行っていますが、軽トラック2台分の野菜が2時間で完売するほどの人気です。地域住民の方との触れ合えるお祭りを楽しみに活動しています。



支店入り口で野菜を販売する様子

サンコムでは、2014年8月23～24日の2日間、恒例となっている「第58回東京高円寺阿波おどり」に、「コムシスグループ連」を結成して踊り手として参加しました。今回で7年連続の参加となります。初日の23日は、夕方から全員最後まで脱落者やけが人もなく、元気に踊ることができました。今回も、2年前から始めた女踊り、鳴り物に加え、子ども踊りにも挑戦し、社員の子も2名が参加。日々の練習の成果を発揮して、一体感が出せました。また、2日目の24日には、大会運営のボランティアに参加し、会場の清掃活動を行いました。開催中に出る大量のゴミを分別して資源ゴミを換金し、インドの教育支援に充てるお手伝いをしました。



第58回東京高円寺阿波おどり

TOSYSグループでは、毎年、長野市と新潟市で8月に開催される「長野びんずる」「新潟まつり大民謡流し」の2大祭りに多くの社員が参加し、社員や地域住民の皆さまと交流を深めています。揃いの法被や浴衣に身を包み、約100名の社員が息の合った元気な踊りを披露することができました。



長野びんずる

つうけんでは、毎年8月に行われる「旭川夏まつり」に、地域貢献とつうけんグループの親睦を図ることを目的として、各事業所、グループ会社、OBなどの協力を得て、「大雪連合神輿」に参加しています。また、小樽事業所は「おたる潮まつり」(7月)、釧路事業所は「くしろ港まつり」(8月)、函館事業所は「函館港まつり」(8月) など、各事業所において地元の祭りに参加しています。



旭川夏まつり「大雪連合神輿」

第五回高円寺演芸まつりへの参画 サンコム

一人づくり

サンコムでは毎年2月に行われている「高円寺演芸まつり」に参加し、「サンコム寄席」を開催しました。

本社員はもとより地域住民も含め、総勢82名が集まり、大盛況のうちに幕を閉じました。地元住民の方々にサンコムを知っていただく良い機会となりました。



第五回高円寺演芸まつり



サンコム寄席 会場の様子

外部表彰

表彰関連 コムシスグループ

—継続的なBPR—

コムシスグループ各社では、事業活動を通じたお客様からの表彰や、社会貢献に関わる表彰など、2014年度も多数の表彰を受けました。

●NTTドコモ四国支店様より感謝状

日本コムシス

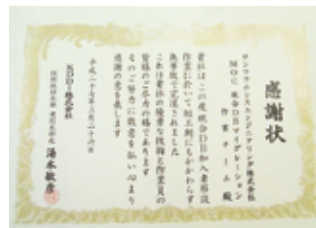
『人身事故「0」10年継続』に対する貢献として、NTTドコモ様より感謝状をいただきました。



●KDDI様より感謝状

サンコム

「KDDI MOC 統合DB加入者移設作業」を無事故で完遂したことに對し、KDDI様より感謝状をいただきました。



●リコージャパン様より感謝状

日本コムシス

機器安定稼働および顧客満足度向上への貢献による感謝状をリコージャパン様よりいただきました。



●東京都より優先指名対象工事会社に認定

日本コムシス

困難な条件の中で、終始熱意と努力を持って施工し、優秀な成績で工事を完成させ一般土木事業の遂行に貢献したため、東京都より認定されました。



●平成26年度長野県優良技術者表彰を授賞

TOSYS

長野県発注の建設工事・委託業務において、優れた施工管理や意欲的な取り組みを行い優秀と認められ、長野県知事より表彰されました。



●大阪市環境局より平成26年度ごみ減量優良建築物に認定

日本コムシス

大阪市環境局（東南環境センター）より関西支店谷町第1ビルに対し、「平成26年度ごみ減量優良建築物」として決定通知を受けました。



●福岡県大野城市ごみ減量・リサイクル優良事業所として認定

日本コムシス

九州支店福岡TS（テクノステーション）が「ごみ減量・リサイクル優良事業所」として福岡県大野城市より、認定されました。



●杉並区次世代育成基金に対するお礼状

日本コムシス

日本コムシスグループのコムシスエンジニアリングが、杉並区次世代育成基金へ協力したことに對し、杉並区長よりお礼状をいただきました。



●杉並区立杉並第四小学校より感謝状

サンコム

杉並区立杉並第四小学校創立90周年記念事業に寄付したことに對し、「感謝状」と「記念品」をいただきました。



コムシスグループCSRのあゆみ

●コムシスホールディングス ●日本コムシス ●サンコム ●TOSYS ●つうけん ●COMJO ●CSS

1940 年代	
1947 年	● 三和電気興業株式会社設立
1950 年代	
1951 年	● 日本通信建設株式会社設立 ● 大北電建株式会社設立
1954 年	● 北海道電話工事株式会社・北海道通信工事株式会社と合併
1960 年代	
1960 年	● 新潟電話工業株式会社設立
1961 年	● 共栄工業株式会社と合併、北日本通信建設株式会社に社名変更
1967 年	● ソフトウェア要員の養成開始
1968 年	● 大榮通信工業株式会社と合併、三和大榮電気興業株式会社に社名変更
1970 年代	
1979 年	● 情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始
1990 年代	
1990 年	● 日本コムシス株式会社に社名変更
1992 年	● 株式会社つうけんに社名変更
1996 年	● 株式会社三和エレクトリックに社名変更
1997 年	● ISO9001 を組織別に認証取得 ● 信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更
1998 年	● ISO9001 を本社および全支店で認証取得 ● テクノ電設株式会社と合併 ● ISO9001 認証取得
1999 年	● コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入 ● ISO9001 を関連会社へ拡大 ● ISO9001 認証取得／ISO14001 認証取得
2000 年代	
2000 年	● 「コンプライアンス規程」を制定
2001 年	● ISO14001 を全社で認証取得／ISO9001 を全社・全組織に統合
2002 年	● 「コンプライアンス・マニュアル」を作成 ● ISO9001 登録変更／OHSAS18001 認証取得 ● OHSAS18001 認証取得
2003 年	● 日本コムシス・三和エレクトリック・TOSYS の3社共同の株式移転により、 純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立 ● ISMS 組織別認証取得 ● ISO14001 認証取得

2003 年	● 日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、 コムシスシェアードサービス株式会社を設立
2004 年	● ISMS を全社・全組織に拡大 ● プライバシーマーク認証取得 ● ISO14001 認証取得
2005 年	● 企業理念、行動指針を新たに制定 ● サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更 ● JIS Q 27001 認証取得
2006 年	● COHSMS を全社認証取得 ● 厚別ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得
2007 年	● 総務部 CSR 推進室を発足 ● 情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001 へ移行
2008 年	● コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得 ● 総務人事部広報・CSR 推進室を発足 ● 次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2009 年	● 日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立 ● 総務部 CSR 推進室を発足 ● 総務部広報・CSR 推進室に組織変更 ● 総務企画部 CSR 推進室を発足
2010 年代	
2010 年	● コムシス北海道ビルに太陽光発電システムを導入 ● 本社ビルに太陽光発電システムを導入 ● 総務人事部 CSR 推進室を発足 ● ISO/IEC27001 認証取得 ● 株式会社つうけんと株式交換により経営統合
2011 年	● 次世代認定マーク（愛称：くるみん）取得
2012 年	● 日本コムシスグループ再編
2013 年	● 常陸太田太陽光発電所、昭和太陽光発電所、津太陽光発電所稼働 ● 衛生推進室設置
2014 年	● 世田谷テクノステーションに太陽光発電システムを導入 ● 業務推進部を発足 ● 株式会社日本エコシステムの株式を取得 ● 川中島建設株式会社を完全子会社化とする経営統合 ● 北茨城太陽光発電所稼働
2015 年	● 加東市屋度太陽光発電所稼働 ● 優良派遣事業者認定を取得



コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキを使用しています。



この冊子に使用している用紙の売上の一部は、生物多様性を保全する活動に寄付されています。また、この紙を使用することで国産材の有効活用が推進されます。